アテネオリンピック強化とPro21：構造改革について

（財）日本ハンドボール協会特任副会長
アテネ特別強化委員会会長　岩井正樹

アテネオリンピックに向けて、強化活動も１年が経過しました。１００％アテネオリンピック出場を目標に具体的な実行計画を立案し、計画に沿って着実に強化を進めてきました。その結果、目標達成の目途も見えてきまして、夢が大きくふくらんできたと考えて居ります。

１年・１シーズンの中に、日本オリンピックチーム強化期間を４月～８月の５ヵ月間に設定をして、５ヶ月間で海外遠征２回を含めて５回の強化合宿で実力向上をはかり、その間30試合の国際試合を消化してきました結果、日本のオリンピックチームの実力は着実に伸びてきて、ライバルと対等あるいはそれ以上に戦えるところに到達したと考えて居ります。また、新設した日本に於ける２つの国際大会では沢山の観客に会場に足を運んで頂き、レベルの高い試合を見て満足してもらうと共に、この大会を運営した県協会も、収益を上げる運営が出来るようになったと思います。一方、併行して進めてきましたスペイン・カタルーニャ協会内に、日本ハンドボール協会の欧州強化拠点を立ち上げ、大学生、社会人の若手６人を派遣して強化する活動もスタートして居ります。この活動も４ヶ月を経過しましたが、既にスペイン１部のプロリーグに所属して活躍できる選手が誕生するなど大きな成果をあげはじめたことも大変心強く感じて居ります。

以上の様に、オリンピックに向けての強化システムは１年間で大方の見通しが立ちはじめ、2002年では世界選手権アジア予選（２月・イラン）、アジア・サーキット大会（４月・日本近畿地方）、アジア大会（８月・韓国プサン）と３回にわたって、宿敵韓国との試合が予定されており、この３試合に合わせて更なる強化を展開することで、アテネオリンピック出場の見通しが立ってくるものと考えて居ります。

さて、この様に強化システムが出来上り、オリンピック出場の目途が立ちはじめたのですが、これを継続させていくことは今まで以上に難しいことと考えています。そこで日本ハンドボール協会では、Pro21：構造改革プロジェクトをＨ１３年４月よりスタートさせて、日本ハンドボール協会を中心に地方県協会も含めて、磐石な体制づくりに取り組んでいくことを検討中です。現在、基本構想が出来上り、各連盟、地域・県協会の皆さんに構想案を説明して、積極的に意見聴取にとりかかっているところです。各県協会の第一線で活躍されている方々の御意見を反映して実行計画を立案していく予定でありますので、全国の皆さんから前向きで建設的な御意見を出して下さることを期待して居ります。

最後に、先回、メジャースポーツを目指すと申しましたが、Ｈ１４年度より毎週１回、海外のレベルの高いハンドボールの試合、日本の主要大会の試合、全日本チームの試合・活動などをテレビ放映する予定で居りますので、楽しみにしていて下さい。

第53回全日本総合選手権
男子は大同特殊鋼　女子は広島メイプルレッズ
ともに3連覇!!

第53回の全日本総合ハンドボール選手権、男子大会は平成13年12月12日(水)から15日(土)まで、東京の新宿スポーツセンター、駒沢屋内球技場、駒沢体育館において開催された。日本リーグ勢が順当に4強へとコマを進め、本田熊本を破った本田技研と、湧永を大接戦の末振りきった大同特殊鋼が決勝へ進んだ。決勝は最後まで一点を争う展開となったが、後半終了間際に本田技研に退場者が続き、その好機を確実に得点に結び付けた大同特殊鋼が3連覇を達成した。最優秀選手には新人離れした度胸で好セーブを連発した大同特殊鋼のGK高木尚、最優秀監督賞にはメンタル面でもチームを好リードした大同特殊鋼冨本栄次が選ばれた。

女子大会は平成13年12月24日(月)から27日(木)まで、千葉県の市川市国府台体育館、市川市塩浜体育館で開催された。全日本インカレ2位の筑波大が日本リーグのソニーセミコンダクタ九州を破り8強へコマを進めたが、その後は日本リーグ上位陣が好調。決勝はシャトレーゼを下した広島メイプルレッズと、北國銀行に追い上げを許しながらも振りきったオムロンとの対戦となった。決勝は序盤から点の取り合いとなったが、呉・林の韓国コンビを中心にポスト青戸らで順調に加点する広島が、GK高森の好守もあり、見事3連覇を達成した。最優秀選手は高い得点力の影で確実な守りを見せた広島GK高森妙子、最優秀監督賞には相変わらずのリードオフマンぶりを発揮した広島林五卿が選ばれた。

男子の部

【2回戦】

本田技研 28 (14－9 / 14－11) 20 アラコ九州

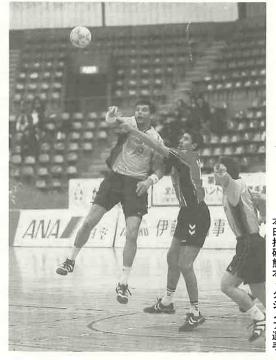
[戦評] 立ち上がり両チームともスローペースで進む。本田技研はGK四方の再三の好プレーもあり、徐々にペースをつかむ。

後半に入り、本田技研は広政、谷口の両サイドから攻め込み、またストックランのミドルシュートが決まり点差を広げた。アラコ九州は最後にオールコートに出たが、点差は縮まらなかった。アラコの善戦といえる。

本田技研熊本 21 (12－8 / 9－11) 19 トヨタ車体

[戦評] トヨタ車体が北出のシュートで先制。本田熊本もクジノフのロングシュートで応戦する。前半9分過ぎ、5－2と本田熊本がリードするが、その後一進一退の攻防を繰り広げる。23分過ぎ、本田熊本クジノフの退場でトヨタ車体の追い上げムードになるが、逆にミスを速攻につながれ、前半残り3分28秒で10－6とリードされ、チームタイムアウト。その後両チーム速攻などで12－8として前半終了。

後半も一進一退の攻防のなか、トヨタ車体が速攻で追い上げ、18分過ぎに16－16の同点となる。本田熊本クジノフが3回の退場で失格となるが、苦しい展開のなか本田熊本も粘り、1点差の攻防となる。残り1分を切ったところで21－19となりトヨタ車体がタイムアウトをとる。その後、スカイプレーを試みるが失敗。21－19で本田熊本が逃げ切った。

本田技研熊本・クジノフ選手

激しい攻防の中、両GKの好セーブが目立った。

大同特殊鋼 28 (17－13 / 11－10) 23 大崎電気

[戦評] 立ち上がりから両者激しい当たり。先制したのは大同。冨本のステップ、藤井のポスト、松林のサイドなどで着実に加点。対する大崎も加藤のカットイン、岩本のロング、中川のミドルなどで20分過ぎまでは一進一退。大崎・佐藤が退場の間に大同は南川のサイドでリードするも、

大崎も森本のサイドですぐに追いつく。しかし、前半終了間際に大同が抜け出す。白、松林、冨本で4連取。17－13と4点リードで後半へ。

後半も10分過ぎまでは一進一退。しかし14分15秒、大同は藤井のポストで点差を６点に広げる。その後、20分過ぎまでは両チームともにオフェンスのミスが続き、膠着状態となるが、大同は朴のミドル、市原のポストなどで得点を重ねた。終盤、大崎も粘りを見せたが、安定した試合運びで大同が逃げ切った。

湧　永　製　薬　40（22－3／18－11）14　北　陸　電　力

［戦評］総合力に勝る湧永製薬に対し、果敢に挑む北陸電力だが、やはり日本リーグ１部の堅い守りを割ることができず、遠目のシュートを坪根、松村の湧永の両ＧＫに阻止され、得点を思うようにあげることが出来ない。一方湧永は、大川らの速攻、ブラマニスのロング、古家らのカットイン、後半には中山の豪快なロングシュートに場内が沸くなど、着実に得点を重ね大量リードとなった。

北陸電力も後半、桜井のロング、表のカットインと一矢を報いたが、湧永製薬のＣＰ全員得点とワンサイドゲームとなった。

【準決勝】

大同特殊鋼　27（10－13／17－12）25　湧　永　製　薬

［戦評］立ちあがりペースをつかんだのは大同。４番冨本、18番朴のミドル、16番ＧＫ高木の好セーブもあり３－０とリード。対する湧永も６番山口、15番杉山のポスト等で反撃開始。12分過ぎには、８番シグルドソンのカットインで４－４の同点とする。ここから流れは湧永へ。10番ブラマニスの３連取、３番下川のサイドなどで17分には８－５と３点リード。ここで大同はチームタイムアウト。その後、湧永は20分過ぎにリードを５点に広げるが、大同も粘り、８番藤井のポストなどで反撃。前半は13－10、湧永リードで折り返す。

後半、大同は８番藤井のポスト、２番松林のサイド、18番朴の７ｍTで３連取。同点とする。ここからは１点を争う攻防がつづく。大同は20番白、湧永は６番山口が得点源となり、日原、坪根の両ＧＫも再三の好守を見せる。残り３分で24－24の同点。ここで大同が、22番白のカットインで勝ち越す。湧永は２番森山がサイドシュートのチャンスを得るも、大同12番日原がこれを好セーブ。大同が湧永を振り切った。

本　田　技　研　24（12－10／12－9）19　本田技研熊本

［戦評］開始から激しい接触とそれを突破するパワー・スピードあふれる展開となった「本田」対決。本田技研は主力のストックランを負傷で欠きながら、開始10分で７－３とリード。本田熊本はたまらずタイムアウト。その後、両チーム得点を重ね、本田21番ヴォルの退場をはさみ、本田

本田技研・ヴォル選手

熊本が３連取し、１点差につめよるも、12－10で前半を折り返す。

後半は、本田の守護神橋本を投入。７分で本田熊本が12－12の同点とする。一時、13－12と逆転するが、13分過ぎから地力に勝る本田が着実に得点を重ね、25分には４点差に広げた。本田熊本も７人攻撃をしかけるが、うまくかみ合わず、24－19で本田が勝利した。本田熊本17番と本田ＤＦとのかけ引きが非常に目を引くものがあった。

【決　勝】

大同特殊鋼　22（10－10／12－11）21　本　田　技　研

［戦評］昨年と同じ顔合わせとなった決勝戦。両者互角の立ちあがり。３番南川のサイド、22番白のミドルで大同が先行すると、本田も18番ストックランの２連取ですぐ追いつく。10分過ぎからは大同がリードし、本田が追いつくと

大同特殊鋼・朴性立選手

いう展開。本田・四方、大同・高木の両ＧＫが好守を連発。結局10－10の同点で折り返す。

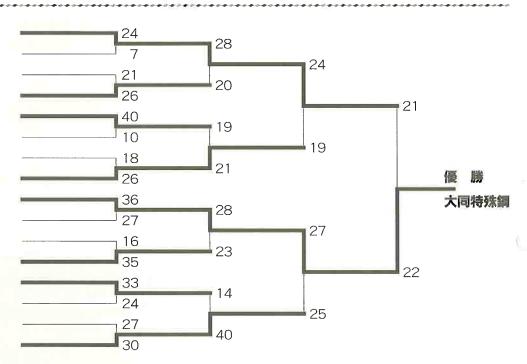
２番池辺を負傷で失った本田は、21番ヴォルをポストに入れた布陣で後半に臨む。10分までの間に大同は２度退場者を出すが、試合の流れは動かず一進一退。13分すぎに、本田は18番ストックランの２連取で後半はじめてリードするが、大同もすぐに22番白のステップシュートで取り返す。16分から大同は２人退場者を出し、２点ビハインドとなるが、18番朴の絶妙なパスからの速攻、３番南川のサイドで追いつき18－18の同点。残り５分から試合が動く。本田18番ストックラン、21番ヴォル退場の間に大同が22－20とリード。本田も１点を返すが及ばず、大同特殊鋼が栄冠を手にした。

▲最優秀選手の表彰を受ける高木選手（大同）

◀優勝を喜ぶ大同特殊鋼の面々

■男子勝ち上がり表

女子の部

【2回戦】

広島メイプルレッズ	25	15－11 10－5	16	筑波大学

［戦評］先制は筑波・森本のミドルシュート。広島も呉のステップシュートで応戦。開始５分間は、両チームともポストを狙う慎重な攻撃で一進一退の展開。広島は林のミドル、フェイントシュートで６分30秒には３点差とする。さらに広島は、呉の個人技によるカットインシュートが決まり、突き放しにかかる。対する筑波は、１対１の個人技で果敢に攻めるが、ディフェンスのよい広島に跳ね返される。広島は呉や杉本のループシュートが決まり、15分には10－５となる。終盤、筑波もディフェンスのリズムが合ってきて、速攻で２点をあげ、追い上げムードで前半を終了する。

後半、広島の林が鮮やかなステップシュートを決める。筑波の早船もポストシュートを決め好スタート。試合が大きく動いたのは筑波・新田の退場から。広島の岩本がポストシュートを決め、さらに呉が体勢を崩しながらもミドル

シュートを決める。筑波は太田にボールを集め、ロング、ミドルシュートにいくが、広島のＧＫ高森にセーブされる。10分には19－12と７点差となる。その後、筑波も粘りを見せるが、追い上げることができず、最後は25－16と９点差をつけられ試合終了。

シャトレーゼ　24（10－7／14－12）19　日立栃木

［戦評］実力伯仲と見られる両チーム、前半10分過ぎまで一進一退の展開。シャトレーゼは確実なロングシュートこそないが、スピードで翻弄し、隙をついてのポストやカットインのシュートが決まりだし、18分には６－４とリードを奪う。日立栃木は浦田の左右に打ち分けるシュートで応戦。しかしシャトレーゼは、積極的に前に出るディフェンスでロングシュートを外郭へ追い出し、得点させない。またボールカットを狙い、速攻へとつなげていく。シャトレーゼＧＫ遠藤の好セーブもあり、25分に10－５とリードを広げる。日立栃木も反撃を見せ、10－７で前半を折り返す。

後半は日立栃木が７mT、シャトレーゼは原のロングシュートで始まる。６分に日立・太田がロングシュートを決め、12－10、さらにエース郭が強引にシュートを決め、追い上げムード。しかし、日立の荒いディフェンスに助けられたシャトレーゼは、7mT、さらにはこぼれ球を拾い速攻からキャプテン熊谷がシュート、穂積までが今までチームとしても出なかったロングシュートを決め、11分の時点で16－11。日立栃木は左足を痛めていると見られる郭が今ひとつの調子。速攻でシュートチャンスを狙おうとするが、焦りからかミスを連発し、逆に得点機を与えてしまう。22分には21－13。残り５分でシャトレーゼは勝ちを意識したか、逃げ切りを考えたか、積極的なディフェンスがなくなり、日立栃木に容易にシュートを打たれ、立て続けに得点される。シャトレーゼはチームタイムアウトをとり､流れを変えに出て、その後だめ押しの１点をあげて勝負を決める。

北國銀行　25（10－6／15－14）20　立山アルミ

［戦評］前半５分で２－０。両チーム積極的に攻めるが、ミスで得点とならない。北國銀行は着々と得点を重ねていくが、立山アルミの初得点は14分50秒。立山にとって苦しい試合展開となる。シュートチャンスにつなげる展開が、北國の好ディフェンスに阻まれ、うまく作れない。両チームとも気合いが入り過ぎなのか、肝心のプレーでミスが目立ち、ことごとくシュートチャンスを潰してしまい、ロースコアーの展開。25分には９－３と北國銀行が６点リード。立山の得点機は北國のミスからであり、ていねいにじっくり守って得点チャンスを作り、攻めたいところ。前半終了時には10－６と相手ディフェンスに慣れてきた立山アルミの追い上げムード。

後半、立山アルミの鏡森がサイドの位置から回り込んでシュート。さらに鏡森が今度はロングシュートで２点差とする。これにあせったのか北國銀行も立て続けにシュートを決め、６分で再び６点差とする。両チームとも徐々に加点し、13分には17－14と再び競り合いの気配。その後、北國銀行は堅いディフェンスから速攻を決める得点パターンで加点、23分には22－16と再び突き放す。立山アルミも中塚が個人技で得点していくが、流れを変えるまでにはいたらない。３点差まで詰め寄るが、最後再び突き放され５点差で試合終了した。

シャトレーゼ穂積選手

オムロン　21（13－11／8－9）20　ブラザー工業

［戦評］立ち上がりはお互いに激しく当たり合う荒れた展開。速いパス回しと確実なロングシュートの点ではオムロンが有利。ブラザーは、鎌田が不利な体勢からサイドシュート、羽出重が相手のこぼれ球を拾い得点。さらにキャプテン菅谷のラッキーなステップシュートも決まり、７分には４－３と１点をリード。それ以降は１点を取り合う展開。オムロン有利と見られていたが、ブラザーの攻守の切り替えの速さにオムロンが翻弄されている感じ。あせっているのかオムロンの攻撃が単調になると、ブラザーはすかさずボールカットを狙っていく。オムロンは１点はリードするが、すぐにブラザーに追いつかれる展開。20分を過ぎてからは、オムロンはディフェンスを修正し、一線で守る形を築く。25分で12－10とオムロンが２点リード。その後互いに１点ずつ取り合い後半に入る。

後半の初得点はブラザー・菅谷のロングシュート。競り合いの展開を予想させる。５分にはブラザーが14－13と逆転。オムロンも直ぐに追いつくが再びブラザーがリード、オムロンが追うという展開となり、11分過ぎには18－15とブラザーが３点のリードを奪い、この試合最大の点差がついた。しかし、オムロンも追撃、17分には18－18の同点に追いつく。ここでブラザーがチームタイムアウトをとり、その後菅谷がステップシュートを決めて再びリード。だが、オムロンも陳のポストシュート、山田のミドルシュートで20－19と再逆転。しかしすぐにブラザーも同点に追いつくが、残り５分、オムロン山田が相手のミスから速攻で得点、21－20とリード。この１点を守り切ってオムロンが激しい競り合いを制した。

【準決勝】

広　　　　島 メイプルレッズ 28（18－10 / 10－12）22 シャトレーゼ

［戦評］両チーム慎重な立ち上がりの中、シャトレーゼがGK細谷の好守で4分すぎまでに4－1とリードをうばう。その後、広島は呉にボールを集め、カットイン、ステップシュートで同点、さらに12分には岩本の速攻でついに逆転し、リードする。一進一退が続き、12－9で広島リードの場面、シャトレーゼ・熊谷が速攻で得点した際負傷し、シャトレーゼは攻守の要を失い、広島の林の4連取を含む6点を残り8分間にうばわれ、18－10と広島リードで前半終了。

オムロン・陳選手

後半に入っても広島は林を中心にポスト、速攻、ミドルシュートを多彩な攻撃で加点する。それに対しシャトレーゼは稲吉、穂積、藤浦らで追いすがるが、GK高森を中心とした広島のディフェンスを崩しきれず、28－22のスコアで広島が勝利を収めた。

オ　ム　ロ　ン 24（15－10 / 9－12）22 北　國　銀　行

［戦評］開始直後よりお互い素早い動きの展開で、10分までに4－3と北國リード、そこからオムロンが陳のリバウンド、ポストシュートで3連取し、6－4と逆転。14分に北國も小松のサイドシュートで1点を返すが、オムロン・山田の活躍と林の速攻、さらには北國は2人の退場を出し、4人のコートプレイヤーでの戦いを強いられ、23分には13－6とオムロンが7点リード。北國はGKをかえて流れを変えようとするが、オムロンGK吉田の好守もあり、前半は15－10のオムロンリードで折り返す。

後半は北國の2連取で3分には12－15の3点差。しかしオムロンも山田らで3点連取のお返しで、5分には18－12。北國が再び黒木、上出で13分すぎに4点差の16－20としたが、その後9分間無得点に抑えられ、その隙にオムロンは着々と加点。22分には24－16とリードを広げた。

ポストにパスを通す山田選手（オムロン）

オムロン・山田の退場と北國・上出の連取で2点差に迫るも「時すでに遅し」で、北國のくやしい敗戦となった。オムロンはGK吉田の好守とコートプレイヤー山田の活躍が光った。

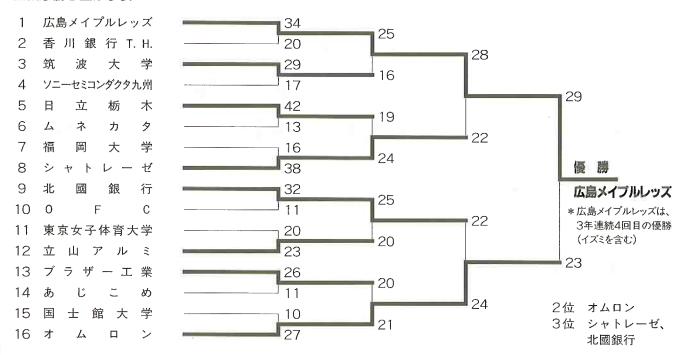
【決　勝】

広　　　　島 メイプルレッズ 29（14－11 / 15－12）23 オ　ム　ロ　ン

［戦評］広島のスローオフで試合開始。両チームともセット攻撃中心の展開となった前半戦。広島・河本のミドルシュートで先制得点の後、広島・呉、林のカットインシュートによって着々と加点した。オムロンは陳のポストを中心に攻撃を展開し、12分過ぎに広島・呉にマンツーマンディフェンスをするも、14－11の広島リードで前半を終了した。

後半開始早々、広島・林らの3連続速攻で17－11とし、ゲームの流れをつかみ、オムロンのダブルマンツーディフェンスに対しても終始落ち着いて攻撃し、29－23で広島が3年連続の優勝をつかんだ。広島GK高森の好セーブが光った。

女子優勝の広島メイプルレッズ

■女子勝ち上がり表

記者の目

平成13年度全日本総合男子の部が、12月15日駒沢体育館で大同特殊鋼と本田技研の間で決勝戦が行われた。昨年度の決勝戦と同様に激しい戦いとなり、1点差で大同特殊鋼が３連覇を飾ったが、同様に昨年に引き続き試合内容に対して、各方面で議論がなされている。

翌日の朝日新聞、読売新聞にこの試合内容について論評がなされているので、両新聞社の了解を得て掲載する。ハンドボール界の外からの論評としてハンドボールゲームのあり方を考えてみる材料としてみては如何であろうか。

朝日新聞より

（明）「日韓選手、やっとひとつに」
（暗）ホンダの2外国人、最終盤に退場

19－19で残り３分49秒。ホンダの２人のフランス人がそろって２分間退場になった。ボルが大同特殊鋼の得点機に反則し、判定に怒ったストックランがボールを床にたたきつけて異義。試合を通じて判定にイライラを募らせていたが、肝心な場面で火を噴いた。

４年目の２人は、いまだに日本の判定基準に慣れず、逆に不信感を抱いているよう。「正しいと思っているプレーは変えられない」。試合後、ＧＫ兼監督の橋本は険しい表情でいっている。

大同は転がり込んだ好機に速攻で２点を勝ち越し。さらにホンダに退場者が出て、何とか逃げ切りの構図が見えてきた。

選手兼監督の冨本は「ホンダの２人が予想通りストレスをためてくれた」。それでは大同の韓国人２人はどうかというと、白元喆が前半にラフな守備で一度退場したぐらい。「怒ったら罰金」とクギを刺したのも効いて、審判に不服を覚えてもぐっと抑えて終盤に貴重な得点を重ね続けた。

韓国人もときに自分勝手をやる。その度に今季から監督に就いた冨本は怒ったという。準決勝もベンチでけんかした。「自分が年上で助かった面もあるが……。お互いが歩み寄って、この大会で一つになれた気がする」

得点でいえば、両チームとも外国人が６割から７割を挙げている。なのにホンダの２人はどこか周囲から浮いていた。外国人抜きでは語れなくなった男子ハンド界。彼らがいかに溶け込み、チームが練れていたか。１点差は、そのあたりの差だった。

（隈部康弘）

読売新聞から

守って守って速攻決めた

均衡が破れたのが後半26分過ぎ。大同特殊鋼の速攻に慌てて守備に戻ったヴォルが反則。判定に強く抗議したストックランまでが２分間の退場になった。短期決戦に勝負強さを発揮する大同特殊鋼がこの好機を逃すわけがない。韓国代表の白元喆らが連続得点して、勝負は決した。

今季から指揮を執る選手兼任の冨本監督が「守備の勝利」と振り返った通り、堅守がこの速攻を生んだといえる。６回のパワープレーをホンダに与えながら、しつこく守って失点を最小限に抑えた。「ホンダは攻守で選手交代が多いので、速攻が効くはず。守っていればチャンスが来ると思っていた」と、新監督はしてやったりの表情だ。

リーグ後半での巻き返しへ、大きく収穫もあった。日体大から加入したルーキーＧＫ高木だ。

先発にも気後れせずにファインセーブを連発、戦力としてメドが立った。「このぐらいの力はある」と監督は驚きもしなかったが、大会ＭＶＰ守護神は「また頑張ります」と笑顔。日本リーグの各チームは外国人選手が主要なポジションを占めているが、高木のような若手がどんどん出現すれば、３大会連続で逃している五輪出場権奪回の可能性も膨らんでくる。

（岡田卓史）

高松宮杯 男子第44回・女子第37回 平成13年度全日本学生選手権大会

男子は、大阪体育大学が2年連続9回目、女子は、東京女子体育大学が4年振り15回目の優勝

平成13年度学生日本一を争う全日本学生選手権大会は、11月14日より18日まで、富山市総合体育館・富山県総合体育センターにおいて、男子32大学・女子24大学が集い、熱戦が展開された。

男子の部

男子は、第3シードの大体大が堅い守りで勝ち上がり、初優勝を狙う第1シードの中部大を破り、2年連続9回目の優勝を飾った。

下馬評では各地区学連のレベル差が接近し、混戦大会と言われていたが、1回戦から中部大－順天堂、桃学大－国士舘、福岡大－中央大の、どちらが勝ち上がるか注目の対戦があり、名城大、国士舘のシード校が早々と姿を消す波乱含みのスタートとなった。

中部大に順天堂がどう挑むか注目されたが、順天堂の早いパスワークに悩みながらも、終了直前に何とか同点に追いついた中部大が、延長に入り息を吹き返し辛勝。名城大－東北福祉は、全員ハンドで気迫に満ちた攻めを見せる東北福祉に押された名城大が、何とか延長に持ちこんだものの、攻め手を欠き敗退した。桃学大－国士舘は、多彩な攻撃を見せる国士舘が順調な滑り出しを見せ、前半4点リードで折り返したが、後半に入り桃学大は早く粘り強い攻めで長尾（北嵯峨）、川西（高岡向陵）などが連続得点し、前半の劣勢を挽回し勝ち上がった。福岡大－中央大は、立ち上がり先手を取った福岡大が、後半6分までに5点差をつけ優位に立った。しかし、その後、中央大守備陣が踏ん張り、福岡大の攻めを無得点に封じている間、12点を連続加点し勝ち上がった。

2回戦も、第2シードの大経大、第3シードの東海大、中央大が敗れる波乱があった。第2シードの大経大は、エースを欠き全員ハンドの明治大のペースに嵌り、本来の動きを出せずに敗退。中京大－中央大は、一昨年函館大会でも、中央大が福岡大に勝って、2回戦で対戦（中京大の勝ち上がり）という因縁めいた対戦となったが、中京大のGK木下（岡崎城西）の好守から渡辺（浦和実）、森（桜台）の速攻に繋げ勝ち上がった。

準々決勝4試合中3試合が1点を争う接戦が展開された。関東1部勢を撃破してきた桃学大と早稲田の注目の一戦は、前半の劣勢を挽回、終了寸前に追いつかれ延長に縺れ込んだ早稲田が、試合運びの上手さを見せ桃学大を振り切った。中部大－日体大は、中部大が前半20分過ぎから4点連取し、3点差で折り返したが、後半に入り日体大も比嘉（那覇西）の速攻などで追いつき、17分には逆転した。しかし、その後が続かず、その間に中部大が豊平（那覇西）、東（岡崎城西）で連取し再度リード、残り1分、日体大のノーマークシュートが外れ、1点差できわどく中部大が準決勝に進出。

優勝を占う対戦と注目された大体大－日本大は、前半を2点リードで折り返した日本大だが、10分過ぎに主砲若松（熊本市商）の負傷退場から、フローター不在を余儀なくされて、リズムを崩した。大体大は、学生界1と言われる吉川（長崎日大）、西山（此花学院）の両サイド攻撃を守り切った守備陣が、21分間無得点で抑える間、細谷（香川中央）、高嶋（八幡）で逆転。26分の細谷の得点で16－13とし、日本大も29分23秒、鶴田(熊本市商）の得点で追い込んだものの届かなかった。中京大－明治大は、速攻を決めた中京大が明治大を倒し、第17回大会以来、27年振りの準決勝進出を決めた。

準決勝の中部大－早稲田は、立ち上がり中部大が早稲田を10分間、無得点に抑えている間に、作取（那覇西）の好リードから網田(熊本国府)、東などで連続5点連取して大きくリード。早稲田も11分過ぎから田平（北陸）のポスト、文屋（盛岡一）のミドルで反撃したが、前半は2点差で中部大のリード。後半も立ち上がり中部大が加点。一時は5点差と広げたが、早稲田も本職GK不在ながらエース猪妻（此花学院）の4連続得点などで1点差まで詰め寄るものの逆転までには至らず、中部大が初の決勝進出。

連覇を狙う大体大、初の決勝進出。東海決戦を狙う中京大の対戦は、細谷のミドルで先行した大体大を、中京大が追う展開となったが、前半15分から23分までの大体大の攻撃ミスが、中京大の速攻を誘発。8－8のイーブンで前半を終了。後半立ち上がり中京大が森、渡辺の連続得点で2

点リード、その後互いに取り合う形で15分を経過したが、大体大が細谷、四宮（高松工芸）などで連続得点し、22分には6点差とした。その後も中京の反撃を3点に抑えて決勝進出を決めた。

決勝戦は、第41回以来の西日本勢の対戦となった。互いに大型ディフェンスを擁し堅い守りを見せ、前半15分までは一進一退で推移したが、その後、中京大の攻撃のリズムの乱れをついた大体大が4連取してペースを掴み、後半21分には10点差をつけ、中部大のその後の反撃を抑えて2年連続9回目の優勝を手中にした。

女子の部

女子は、2回戦で日女体が日体大に敗れた以外は波乱もなく、シード校が順当に勝ち上がってきた。

準々決勝の東女体大－武庫川は、開始2分間で武庫川が3連取で優位に立ったが、その後、立ち直った東女体が橋本（埼玉栄）、菅野（昭和学院）などで加点、前半を6点差で折り返した。後半15分には10点差まで開き、東女体がベスト4一番乗りとした。久々の8強進出の日体大と福岡大の対戦は、第2シードの福岡大がコンスタントに得点し勝ち上がった。筑波大－大教大は、筑波大が後半10分過ぎからの連続得点で大教大に快勝。

国士舘－福教大は、国士舘が内田（文大杉並）、小野沢（同）、上町（盛岡二）などの活躍で、後半6分までの10－10から抜け出して、新垣（陽明）、河野（松橋）で追撃する西日本1位の福教大を2点差に抑え昨年に続きベスト4を決めた。

準決勝の東女体－福岡大は、東女体が岡崎（文大杉並）、菅野、吉田（宣真）の2年生トリオの活躍でコンスタントに加点し、福岡大の攻撃を前半途中8分間、後半途中10分間無得点に抑えるなど守備の頑張りもあり、決勝進出を決めた。

筑波大－国士舘は、エース早船（氷見）の活躍で筑波大ペースで進んだが、国士舘の守備陣の踏ん張りで、後半21分までは2点差で推移した。しかし、22分以降、国士舘を1点に抑え筑波大が勝ち上がった。

決勝戦は、東女体－筑波大の5年連続の対戦となった。前半15分までに、菅野の3得点をはじめ岡崎、丑久保（昭和学院）などで東女体が4点リードで折り返す。筑波大も後半だけで6得点の早船の負傷退場があった後も、2点差にまで追い上げたが、東女体GK小松（山梨）の好守に阻まれ、4年連続の夢を断たれた。

今大会を振り返ってみると、男子はベスト4に関東勢が大会史上初めて1大学のみの進出であったことや、シード校の早い回での敗退などで各地区学連の実力差がせばまっていることが顕著になっていたことであるが、その中で大学という4年間の流通集団の中で、10年間で7度の決勝進出を果たしている宍倉監督の大体大の実績が光っている。

女子は、逆にシード校の順当進出で終わっているが、男子同様に学生界という流通集団の中でのチーム力の維持の難しさが窺え、宍倉、高野両監督の決勝戦後に選手の輪を離れたロビーで、一人静かに勝利を噛み締める目にうっすらと光る物が、今大会の激戦を物語っていることを印象づけていた。

【個 人 賞】

◆男　子

ＧＫ　田中　智博（大体大）
ＣＰ　四宮　英伸（大体大）
ＣＰ　田中　秀樹（大体大）
ＣＰ　作取　克治（中部大）
ＣＰ　香川　将之（中部大）
ＣＰ　瀬川　裕二（早稲田）
ＣＰ　森　　真介（中京大）

◇特別賞

ＣＰ　林　　圭介（大体大）
ＣＰ　田平　修一（早稲田）

◇優勝監督賞

宍倉　保雄（大体大）

◆女　子

ＧＫ　小松　理子（東女体大）
ＣＰ　橋本　寛子（東女体大）
ＣＰ　佐々木純子（東女体大）
ＣＰ　原田　　恵（筑波大）
ＣＰ　早船　愛子（筑波大）
ＣＰ　小野沢香理（国士舘大）
ＣＰ　松岡　巳加（福岡大）

◇特別賞

ＣＰ　岡崎　美樹（東女体大）
ＧＫ　安達多華美（筑波大）

◇優勝監督賞

高野　　亮（東女体大）

男子の部

優勝・大体大

決勝 22－27

1回戦

チーム	得点	得点	チーム
中部大学	23	22	順天堂大学（延長）
同志社大学	17	15	道都大学
大同工業大学	18	28	日本体育大学
琉球大学	9	22	東海大学
名城大学	19	20	東北福祉大学（延長）
関西学院大学	23	32	早稲田大学
東和大学	17	24	法政大学
桃山学院大学	21	20	国士舘大学
大阪経済大学	32	9	横浜商科大学
愛知学院大学	19	21	明治大学
中京大学	24	18	函館大学
福岡大学	12	19	中央大学
大阪体育大学	21	16	筑波大学
近畿大学	24	19	慶應義塾大学
松山大学	30	13	新潟大学
名古屋大学	8	34	日本大学

2回戦

得点	得点
31	16
17	14
23	28
21	23
13	18
19	14
35	8
17	36

3回戦

得点	得点
22	21
33	29
11	19
16	15

準決勝

得点	得点
26	24（延長）
16	21

女子の部

優勝・東女体大 23−21

チーム	得点	得点	チーム
沖縄国際大学	15	24	東北福祉大学
東京女子体育大学	27	18	東北福祉大学
愛知教育大学	23	20	東京学芸大学
愛知教育大学	16	23	武庫川女子大学
東京女子体育大学	30	27	武庫川女子大学
天理大学	12	18	日本体育大学
日本女子体育大学	14	16	日本体育大学
京都教育大学	35	11	浅井学園大学
京都教育大学	21	27	福岡大学
日本体育大学	13	27	福岡大学
東京女子体育大学	22	12	福岡大学
桜花学園大学	8	26	茨城大学
筑波大学	24	7	茨城大学
岡山大学	18	21	仙台大学
仙台大学	17	37	大阪教育大学
筑波大学	25	13	大阪教育大学
龍谷大学	23	17	仁愛女子短大
国士舘大学	26	5	龍谷大学
大阪体育大学	14	18	東海大学
東海大学	13	17	福岡教育大学
国士舘大学	17	15	福岡教育大学
筑波大学	17	13	国士舘大学
東京女子体育大学	23	21	筑波大学

第15回女子ハンドボール世界選手権大会

ロシアが優勝を飾る

第15回女子ハンドボール世界選手権大会参加報告

緒方 嗣雄

12月3日より12月15日までイタリア北部の街を中心に女子世界選手権が開催された。我々日本選手団は、日本リーグの前期終了翌日よりオムロンにて合宿に入りナショナルチームの調整後、11月25日よりフランス南部ミュールーズにおいて一週間の最終調整と外国人に慣れるための練習試合を4試合行った。試合相手はフランスの1～2部のクラブチームで、力不足のチームで日本の一方的な試合ばかりとなり、戦術の確認には問題なかったが、コンタクト、素早い動き等には不安を残した。ケガもなくチーム状態は良い感じで最終調整合宿を終わり、世界選手権の開催地イタリア（ブレッサノーネ）に移動する。貸し切りバスにてアルプス越え6時間の長旅も、素晴らしいアルプスの山々を見ることもなくほとんどの選手が睡眠状態で通り過ぎた。

ブレッサノーネの街は、標高550ｍに位置し人口約6000人でリンゴと葡萄の産地、中心部は古い教会を中心に広がり立派なスポーツ施設も整った田舎町である。ホテルは、街外れでプール、サウナがあり我々スタッフには問題がなかったが、選手の気分晴らしの散歩には街まで徒歩で40分かかり不評であった。このホテルに、ロシア、オーストリア、日本の3チームが宿泊した。食事も従来大会ではバイキングスタイルが中心であったが、今回は、毎日変わるパスタの前菜からメインディシュまで満足の食事であった。

大会

12月3日、テクニカルミーティングは大会の主会場となるボルツァーノ（ブレッサノーネ）より車で約1時間の街で行われた。今大会出場24チームが一同に集まった。ＩＨＦ会長の挨拶、ミル・マター氏の挨拶と注意事項、それに各グループに分かれユニホームの確認に入り1時間足らずの簡単なミーティングであった。

大会前日のチーム練習は、試合会場を使用して行った。会場慣れすることと、対ロシア戦のＯＦ、ＤＦチェックをする簡単な練習に終わり、試合に備えた。

【第1戦　ロシア】

ソウルカップで善戦した自信から一進一退の前半戦。後半のスタートで、ミスから連続速攻を許すが、コンビネーションプレーで挽回し3点差までが目一杯、その後は厚い壁に跳ね返され、初戦を飾ることができなかった。また日本から駆けつけた応援団の大声援に応えることもできずナショナルマッチにかける外国人の精神力をまざまざと見せつけられた。日常生活は温厚で優しく女性らしいところが多々みられるが、いざ試合となると豹変し厳しい戦いをする。日本の選手が一番勉強したいところである。

【第2戦　ユーゴスラビア】

前日のグリーンランド戦を見た限り、日本にもチャンスありと思えたが、試合が始まると同時に、厳しいハンドボールを展開された。積極的にシュートを打つも、ゴールキーパーにシャットアウトされ速攻にもっていかれる。後半、ディフェンスシステムを変えて反撃に入るが、大事なところで退場者を出し、相手ペースを変えることなく完敗となった。

【第3戦　オーストリア】

監督は変わったもののエース（アスラ・フリデリカ、今大会得点王となる）の復帰で、スピーディーな攻撃で加点される。日本もチームプレーで加点するが、ここ一発の個人技術に劣る。ＧＫの好セーブが光ったが3連敗となった。

【第4戦　グリーンランド】

格下のグリーンランドとの戦いに立ち上がりから得点を重ねるが、ミスが続き20分過ぎ4点のリードを奪われるが、連続速攻で1点差で折り返す。後半ＧＫの堅守とＤＦの踏ん張りで速攻に繋ぎ加点、多彩な攻撃でグリーンランドを振り切り初勝利を飾った。

【第5戦　韓国】

お互いに手の内を知り尽くしたチームでの戦いとなった。韓国に先手を取られるが、ＧＫの連続7mT阻止で中盤リードする。しかし、シュートミスを速攻に結びつけられ3点リードを許す。後半、ディフェンスシステムを変えながら挽回を図るが、セットオフェンスのシュートが決まらず、念願の決勝トーナメント進出を果たすことができなかった。

予選グループＣ組は、強豪が揃い、何とか2勝以上を目標に戦いにのぞんだが、世界の壁の厚さをまたしても感じ

させられた。スタッフを中心に選手は持てる力を十分に発揮し、攻撃システム、防御システムを展開し果敢に挑戦したが、勝利に結びつけることができなかった。しかし、選手一人一人は、この経験を今後の試合で十分発揮し、ナショナルプレイヤーは一味違うところをファンに見せてほしい。

試合の休日、小学校に訪問し交流会を行った。我々スタッフ4名と選手4名でペナント、バッジを土産に、4年生のクラスと交流会であった。生徒16名に先生3名の日本では考えられない環境のクラスである。明るく、素朴な小学生達と単語を並べた自己紹介に始まり、歌の歓迎やら、サイン会、会話で楽しい時間を過ごし、思い出深い一日となった。また、今回始めてＪＯＣ選手強化本部現場主義の一環より世界選手権の激励で、欧州視察中の球技サポート班の勝田氏（ラグビー）、蒲生氏（ハンドボール）の激励応援がありお世話になりました。現地まで声援に来ていただいた先生方、父兄の方には大変力強い応援を連日いただきありがとうございました。

最後になりましたが、選手所属チーム、ハンドボール協会には、この厳しい世界情勢の中、大会参加を理解いただき参加させていただきましたことに対してお礼申し上げます。

✲試合結果✲

◇第1戦・12月4日

日　本 23 (11－13 / 12－18) 31 ロ　シ　ア

［戦評］日本は立ち上がり2点連取されるものの、佐久川のサイドシュート、金城のステップシュートなどで、10分、4－4から倉知、山田らで逆転。山下（美）のファインセーブなどで、残り7分、3点のリードを奪うものの終盤シュートミス、退場の間に2点リードされ前半を折り返す。

後半、立ち上がりミスから連続速攻を許し、一気に5点差とされるが、日本も速攻、コンビネーションプレーで15分までに3点差と食い下がったが、15分から21分の間、得点を奪えずディフェンスシステムを変えながら反撃を試みるが敗れた。

【個人得点】 倉知　7・佐久川　4・金城　4・田中(美)　4・山田　4・坂元　1

（編集注：第1戦の個人得点の合計がチーム総得点と異なりますが、報告書通りに示しました。また、第2戦の報告がありませんでしたので掲載されておりません。）

◇第3戦・12月6日

日　本 22 (9－13 / 13－17) 30 オーストリア

［戦評］立ち上がりから日本は積極的に打っていくものの、オーストリアＧＫの好守に阻まれ、8分間までの間に4点リードされる。ようやく8分過ぎから手渡しプレーから青戸のシュートで返すものの、ミスからの速攻等で18分には3－10となるが、オーストリア退場の間に、田中（美）のステップシュートなどで4連続得点し、4点差で折り返す。

後半立ち上がり、山田のステップシュートで3点差とするが、その後のシュートが決まらず連続得点を許す。終盤、隅のカットインからのシュート、ＧＫ山下のファインセーブからの速攻などで追い上げたが及ばず、3連敗となった。

【個人得点】 田中(美)　9・山田　5・佐久川　3・隅　2・青戸　1・倉知　1・金城　1

◇第4戦・12月8日

日　本 27 (11－12 / 16－7) 19 グリーンランド

［戦評］立ち上がり、金城のランニングシュート、倉知のサイドシュートなどで10分に4－2とリードするが、その後ミスが続き10分間ノーゴール、20分には4点リードを奪われる展開となった。終盤、連続速攻、田中（美）のステップシュートなどで1点リードされ折り返す。

後半、ＧＫ山下の堅守とＤＦの踏ん張りから屋嘉の速攻で同点とし、粘るグリーンランドを振り切り初勝利となった。予選リーグ最終戦は、韓国と決勝トーナメント進出をかけた戦いとなる。

【個人得点】 田中(美)　8・山田　5・倉知　4・金城　3・坂元　2・屋嘉　2・青戸　1・大石　1・山下(麗)　1

◇第5戦・12月9日

日　本 25 (13－16 / 12－20) 36 韓　国

［戦評］出足、韓国に2点先取を許すが、山田、金城のステップシュート、ＧＫ山下の3本の7ｍシュート阻止などで、前半15分には3点のリードを奪う。その後、一進一退が続いたが、19分から25分の間のシュートミスを速攻に結びつけられ3点リードされ折り返す。

後半、日本はＤＦシフトを6：0からクロスアタックＤ

Ｆマンツーマンと変えながら挽回をはかるが、セットＯＦでのシュートが決まらず、立て続けに速攻を許し、終盤に山田のステップ、佐久川の速攻で得点するものの及ばず敗れ、決勝トーナメント進出はならなかった。

【個人得点】 山田　13・佐久川　6・田中(美)　1・青戸　1・倉知　1・金城　1・山下(麗)　1・坂元　1

〈最終順位〉

優勝　ロ シ ア　(C組1位)
2位　ノルウェー　(D組1位)
3位　ユーゴスラビア　(C組2位)
4位　デンマーク　(A組1位)
5位　フランス　(A組2位)
6位　ハンガリー　(B組2位)
7位　オーストリア　(C組3位)
8位　スウェーデン　(B組1位)
9位　スロベニア　(D組2位)
10位　スペイン　(B組3位)
11位　中 国　(A組3位)
12位　ブラジル　(D組3位)
13位　アンゴラ　(B組4位)
14位　オランダ　(A組4位)
15位　韓 国　(C組4位)
16位　イタリア　(D組4位)
17位　ルーマニア　(B組5位)
18位　ウクライナ　(A組5位)
19位　チュニジア　(D組5位)
20位　日 本　(C組5位)
21位　マケドニア　(A組6位)
22位　コンゴ　(B組6位)
23位　ウルグアイ　(D組6位)
24位　グリーンランド　(C組6位)

〈予選リーグ〉

〈A組〉

	順位	DEN	FRA	CHN	NED	UKR	MKD	数	勝	分	敗	得点	失点	得失点差
1.	デンマーク (DEN)	＼	21 ○ 20	36 ○ 24	23 ○ 16	30 ○ 16	31 ○ 22	5	5	0	0	141	98	43
2.	フランス (FRA)	20 ● 21	＼	29 ○ 18	22 ○ 21	33 ○ 25	31 ○ 17	5	4	0	1	135	102	33
3.	中国 (CHN)	24 ● 36	18 ● 29	＼	24 ○ 23	32 ○ 29	32 ○ 25	5	3	0	2	130	142	−12
4.	オランダ (NED)	16 ● 23	21 ● 22	23 ● 24	＼	28 △ 28	29 ○ 24	5	1	1	3	117	121	− 4
5.	ウクライナ (UKR)	16 ● 30	25 ● 33	29 ● 32	28 △ 28	＼	22 △ 22	5	0	2	3	120	145	−25
6.	マケドニア (MKD)	22 ● 31	17 ● 31	25 ● 32	24 ● 29	22 △ 22	＼	5	0	1	4	110	145	−35

※勝敗(○△●)の上が得点、下が失点を表す。

〈B組〉

	順位	SWE	HUN	ESP	ANG	ROM	CGO	数	勝	分	敗	得点	失点	得失点差
1.	スウェーデン (SWE)	＼	30 ○ 29	27 ○ 24	23 ○ 20	26 ○ 22	29 ○ 21	5	5	0	0	135	116	19
2.	ハンガリー (HUN)	29 ● 30	＼	27 ○ 23	24 ○ 23	27 ○ 26	35 ○ 15	5	4	0	1	142	117	25
3.	スペイン (ESP)	24 ● 27	23 ● 27	＼	29 ○ 28	29 ○ 25	31 ○ 21	5	3	0	2	136	128	8
4.	アンゴラ (ANG)	20 ● 23	23 ● 24	28 ● 29	＼	28 ○ 27	27 ○ 13	5	2	0	3	126	116	10
5.	ルーマニア (ROM)	22 ● 26	26 ● 27	25 ● 29	27 ● 28	＼	29 ○ 25	5	1	0	4	129	135	− 6
6.	コンゴ (CGO)	21 ● 29	15 ● 35	21 ● 31	13 ● 27	25 ● 29	＼	5	0	0	5	95	151	−56

〈C組〉

	順位	RUS	YUG	AUT	KOR	JPN	GRL	数	勝	分	敗	得点	失点	得失点差
1.	ロシア (RUS)		29 ○ 28	27 ○ 20	26 ○ 23	31 ○ 23	29 ○ 13	5	5	0	0	142	107	35
2.	ユーゴスラビア (YUG)	28 ● 29		31 △ 31	39 ○ 31	35 ○ 18	35 ○ 13	5	3	1	1	168	122	46
3.	オーストリア (AUT)	20 ● 27	31 △ 31		31 ○ 29	30 ○ 22	34 ○ 20	5	3	1	1	146	129	17
4.	韓国 (KOR)	23 ● 26	31 ● 39	29 ● 31		36 ○ 25	27 ○ 12	5	2	0	3	146	133	13
5.	日本 (JPN)	23 ● 31	18 ● 35	22 ● 30	25 ● 36		27 ○ 19	5	1	0	4	115	151	−36
6.	グリーンランド (GRL)	13 ● 29	13 ● 35	20 ● 34	12 ● 27	19 ● 27		5	0	0	5	77	152	−75

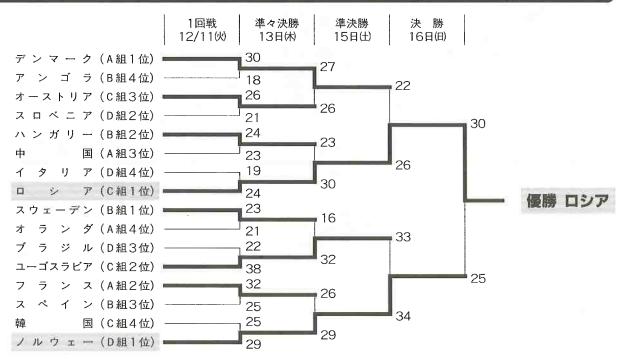
※勝敗(○△●)の上が得点、下が失点を表す。

〈D組〉

	順位	NOR	SLO	BRA	ITA	TUN	URU	数	勝	分	敗	得点	失点	得失点差
1.	ノルウェー (NOR)		32 ○ 24	37 ○ 22	28 ○ 16	30 ○ 18	48 ○ 11	5	5	0	0	175	91	84
2.	スロベニア (SLO)	24 ● 32		36 ○ 23	28 ○ 21	25 ○ 22	34 ○ 16	5	4	0	1	147	114	33
3.	ブラジル (BRA)	22 ● 37	23 ● 36		24 ○ 21	31 ○ 18	23 ○ 18	5	3	0	2	123	130	− 7
4.	イタリア (ITA)	16 ● 28	21 ● 28	21 ● 24		25 ○ 20	26 ○ 22	5	2	0	3	109	122	−13
5.	チュニジア (TUN)	18 ● 30	22 ● 25	18 ● 31	20 ● 25		24 ○ 23	5	1	0	4	102	134	−32
6.	ウルグアイ (URU)	11 ● 48	16 ● 34	18 ● 23	22 ● 26	23 ● 24		5	0	0	5	90	155	−65

第15回世界女子ハンドボール選手権大会　決勝トーナメント勝敗表

「勝負の2002年」

企画・広報委員
早川　文司

2002年が幕を明けた。この１年は日本ハンドボール界にとって、重要なイベントがずらりと待ち構えている。まさに「勝負の2002年」である。

来年のアテネ・オリンピック予選は９月のアジア大会での決定は撤回され、９月のＡＨＦ理事会で検討されることになった。時期は明らかでないが、日本招致に力を入れてもらいたいものである。

それはともかく、全日本の男女にとっては重要な戦いの場が待っている。以前から指摘しているが、今の日本のスポーツ観は、オリンピックに出場してこそ、注目を集めることが可能なのだ。だから、オリンピック出場を逃しているハンドボールは、よほどのことがない限り、注目を集めない。また、たとえオリンピックでなくとも、国際舞台での成績がメディアを動かせるのだ。

だから、日本ハンドボール界でも世間の話題を提供するためには、国際大会、またはアジア地区での結果が重要なのである。

まず、来月２月には男子の世界選手権予選がスタート、７月には女子の世界選手権予選が行われる。さらに９月には隣国・韓国の釜山でアジア競技大会がある。ここでアジアの頂点に立つことが世間の関心を集めることにつながるはずだ。

また、７月には世界のチャンピオンであるフランスを招いての国際大会が予定されている。全日本男女がまず世界選手権予選でいい結果を出し、フランス来日につなぎたい。そうなればファンも注目するだろうし、日本ハンドボールのランクが必ずアップすることになるだろう。

戦力的にはしっかりとした準備、そしてバックアップ体制を強固にして乗り越えることが大切である。それにはカテゴリー別とかでなく、ハンドボールに関わるすべての人が結集して知恵を出し合って成功に導くことが肝心ではないだろうか。

2004年のアテネ・オリンピック出場は、至上命令と言ってもいいだろう。時間はすぐ経過する。一時も早くすべてを結集して、最終目標へ向けて走り出したい。そのことが久しぶりの美酒に酔えることにつながってくるはずだ。頑張ろう！　ハンドボール愛好者たちよ。

中学校活動シリーズ

氷見市立北部中学校（富山県）

若年層（小・中学生）の競技人口拡大は最重要課題の一つであり、前回号まで「小学生の活動」をシリーズで掲載しておりましたが、今回からは引き続き、中学校の活動現状と指導者からの普及・拡大に向けての提言など、新たなシリーズとして連載することと致しました。

初回は、昨年夏の全国中学校大会で優勝した、氷見市立北部中学校に登場頂きました。このシリーズに対してのご意見若しくは要望等ございましたら機関誌委員会までお願い致します。

①学校名、指導者名、所在地

氷見市立北部中学校　　桜打 佳浩
富山県氷見市加納135

②部員数

3年＝12名　　2年＝14名　　1年＝8名　（計34名）

③部設立時期と部活動継続の苦労話など

部の設立は、たぶん学校創立時（27年前）。

継続についての苦労は特にありません。氷見市という地域が支えてくれています。

ただ、氷見市全体でいうとチーム数、部員数は減少してきています。男子が6チームから4チームになりました。

④指導にあたって特に留意されていること

ハンドボール部の指導者という立場になって、13年目（女子4年、男子9年目）になります。最初は、自分の考えを押しつけるめちゃくちゃな指導で、勝つことだけを追い求めていたように思います。しかし、2校目の人数の少ない学校で、生徒一人一人を見つめながら指導を進めるうちに、私自身の考え方が変わってきました。勝つことはあくまでも結果であって、大切なのはハンドボール部の活動を通しての人づくり、という考えです。だからといって、勝つことを二の次においているのではありません。あくまでも勝利をめざし、最善の努力と研究をするなかで人は成長していくのだと思っています。そんな部活動を通して、人間的に魅力のある、社会に出て通用する人を育てたいと考えています。

★ハンドボール部員として心がけてもらいたいこと

●基本的生活態度をしっかりと

あいさつをする、失敗したら謝る、時間を守る、社会・学校の決まりを守る、話を聞くときは相手の目を見る、など、あたりまえのことをしっかりと行わせたいと思っています。ハンドボールだけがんばって、あとの生活態度がめちゃくちゃでは話になりません。

●向上心を

もっと素晴らしい人間になりたい、もっと強くなりたい、うまくなりたい、優勝したい、といった向上する心が大切だと思っています。現状に満足した時点で、人間の進歩は止まってしまいます。「俺はこんなもんじゃない、もっと強くなりたい」という気持ちを持つことができれば、意識の高い練習に取り組むことができます。練習への意識が高くなれば、技術も自然と高くなってきます。

●感謝の心を忘れずに

まず、力強く跳んだり走ったりできる強い身体に育ててくれたお父さん、お母さんに感謝してほしいと思っています。面と向かって「ありがとう」とは言えなくても、そんな心をもつように伝えています。そして、応援してくれる全ての人たち、大会を支えてくれる方々に感謝する心をもってほしいと願っています。

★練習で気を付けていること

●練習時間を長くしない

集中力が持続できる練習時間。それ以上は無駄。

土日の練習においても3時間を超えないように心がけています。基本的には2時間から2時間半が中学生には限度ではないかと思っています。

●練習は日替わりメニュー

毎日同じAランチだと飽きます。学校給食のようにバランスの良い変化に富んだメニューを心がけています。基本練習は大切ですが、基本練習は退屈です。ですから、フットワークやパス練習には様々なパターンがあればいいと思います。遊びながら体を動かしていて、気付いたらフットワークが身に付いていたというのが理想です。

●週1回の休養日

練習でエネルギーを使い果たしています。適切な休養をとらせ、心と身体のエネルギーを補充させることで、練習により意欲的に取り組ませたいと思っています。休みは指導者自身、指導者の家族にとっても必要です。

●教えすぎないこと

どうしても教員という職業の人間は、教えすぎる傾向があると思います。教えすぎると生徒は、指導者の声を待つばかりになり自分で考えることをしなくなります。生徒が考える時間、生徒同士で話し合う時間など、一見回り道のように感じられる時間が、試合の大事な場面で生きてくると思います。

●情熱をもって部活動へ

指導者がやる気をもっていなければ、生徒もやる気が

出てくるはずありません。たとえ演技であっても、指導者は熱くあるべきだと思っています。熱く勢いのある練習を心がけることで、勢いのある試合を展開してくれます。部活動だけではなく、教員としても情熱を持ち続けることが大切だと思っています。

部活動指導も含めて、教育に完全な指導法はないと思います。去年、いい結果を出せたから今年もこれでいいだろう、というわけには行きません。生徒は毎年違います。その年その年にあった最善の指導を、いつも暗中模索しながら探し求めています。ただ、基本的な考え方は、「礼儀正しく、意欲を持った生徒を育てたい」です。

⑤部員数確保への具体的取り組み事項など

毎年10人前後が自ら希望して入部してきているので、特に勧誘とかはしていません。希望して入部してきたメンバーだけで活動しています。

⑥地域社会・近隣小・中・高等学校との連携や関わり方について

スポーツ少年団を抱える小学校が１つだけあるので、男子部１年生や女子部と練習試合を行っています。また、高校の１年生と練習試合を行ったり、合同練習なども行っています。一般の氷見クラブのメンバーにも、時折練習の指導をしてもらっています。

⑦ある日の練習メニュー

フリーアップ（ランニング、ストレッチなど）
フットワーク（サイドステップなど、）
ディフェンス練習（ボールなしの１対１、２対２）
ランパス
シュート練習
３対３の攻防練習
４対４の速攻練習
整理運動

⑧小・中学生など若年層の競技人口拡大に向けて

今年度より氷見市協会がジュニアクラブを発足させました。ハンドボール競技のないスポーツ少年団の小学生にも

ハンドボールを経験してもらおうというねらいです。楽しくスポーツしようというのがクラブの方針ですから、練習は週１回だけです。ちなみに私の息子（３年生）も参加しています。

小学校時代に１つの種目を専門的に行うのではなく、いろんな種目を経験させてやれれば素晴らしいと思います。いろんな種目を行うときに、ハンドボールも経験してもらって、ハンドボールの楽しさを感じてもらうのがいいと思います。そういう様々なスポーツ体験を経て、中学校や高校で専門的に行う種目を選んでいけばいいのではないかと思います。そのためには、協会や教育委員会などのバックアップが欠かせませんが、日本各地で氷見市協会のような取り組みが行われれば、競技人口は拡大すると思います。

⑨ハンドボール文化を日本で定着するためには……

ハンドボールを、見て楽しいスポーツ、やって楽しいスポーツにすることができれば、多くの人にハンドボールを認めてもらえると思います。多くの人に認めてもらえれば、文化として定着していくと思います。

Ｊリーグ発足前のサッカー日本リーグは、観客数300人程度しか集まらない状態でした。しかし、現在は何万人もの観衆が集まる競技となりました。まだまだ、Ｊリーグといえども経営状況が苦しいチームもありますが、サッカーの成功に見習う点は多いと思います。

ハンドボール日本リーグが盛り上がることを期待しています。

NTSセンタートレーニング実施について

(財)日本ハンドボール協会
NTS運営委員会　委員長　蒲　生　晴　明

昨年度より、文部科学省・日本オリンピック委員会の委託事業として、一貫指導システム：競技者育成プログラムの構築、有望選手の発掘を目的としたNTS（ナショナルトレーニングシステム）がスタートし２度目のセンタートレーニングとなりました。

今回のセンタートレーニングは、U—19・U—16のスタッフが選考した全国の優秀選手とNTS各９ブロックから選考していただいた有望選手を一同に集めて、トレーニングを実施しました。将来的に日本の独自性を創りあげるため、戦術的にナショナル活動との関連性を持たせること、また、この機会を通じ、ナショナルチームへ人材を幅広く発掘登用していくことを目的として、U—19・U—16の選考会と合同で行います。

選手たちには、将来のナショナルチームのプレーヤーになることを目指せるように「大きな夢」を持ってもらえるようなシステムにしていくことが必要です。

また、指導者の方々には、ナショナルチームが世界・アジアで戦うため必要な戦術・技術・フィットネス・新しい情報などを勉強していただくことになっております。普段、目前の大会やトーナメントに対して、日々のトレーニングに努力されていることと思われますが、センタートレーニングに参加していただき、日本が世界を相手にした際の問題点・課題などを共に考え、自分を磨き、見直す、絶好のチャンスであります。

◀センタートレーニングを終えて、参加賞を受け取る参加した子供達

▼センタートレーニングを終え、講師よりGoodsを受け取る。(左は蒲生委員長)

候補選手および所属チーム指導者の皆様におかれましては、大会・合宿・校務等、ご多忙であるとは存じますが、主旨をご理解の上、ご参加協力いただきますようお願いいたします。

センタートレーニングスケジュール&スタッフは別表のとおりです。また、今回はU—12（小学生対象）のセンタートレーニングの内容について、掲載をいたします。

NTS2001センタートレーニング　開催スケジュール&スタッフ

	U—19男子と合同	U—19女子と合同	U—16男子と合同	U—16女子と合同	U—12男女合同
実施時期	12/22〜24	12/8〜9、15〜16	1/12〜13	1/12〜13	12/26〜27
実施場所	大同特殊鋼	プラザー	大同特殊鋼	プラザー	大同特殊鋼
協会スタッフ	松男子強化副委員長	西窪女子強化委員長			角常務理事
		水上強化委員		井上強化委員	常務理事
	松井U-19監督（兼NTSスタッフ）	田中U-19監督（兼NTSスタッフ）	佐々木U-16監督（兼NTSスタッフ）	高野U-16監督	笹倉指導委員長
	大房コーチ（兼NTSスタッフ）	藤本コーチ（兼NTSスタッフ）	逢坂コーチ	石塚コーチ	
	滝川コーチ	栗山コーチ	今井コーチ		
		平賀コーチ			
ＮＴＳスタッフ	蒲生委員長	蒲生委員長	蒲生委員長	蒲生委員長	蒲生委員長
	関副委員長	関副委員長	関副委員長	関副委員長	佐藤委員
	佐藤委員	山田委員	佐藤委員	佐藤委員	高田委員
			高田委員	高田委員	
	冨本インストラクター		志賀インストラクター	志賀インストラクター	冨本インストラクター
	橋本インストラクター		東江インストラクター	東江インストラクター	橋本インストラクター
	三輪インストラクター				三輪インストラクター
	大同特殊鋼選手	プラザー選手			岩本インストラクター

U−12・NTSセンタートレーニング

テーマ・トレーニングの狙い

(1)テーマ
・コーディネーション能力向上
・グループ戦術における判断とリーダーシップ習得
・常にゴールを狙う中での戦術習得

(2)トレーニングの狙い
・ハンドボールの興味、楽しさを理解させる。
・常に前を狙う。
・とっさの判断力、ボールコントロール等個人戦術の養成。

トレーニング内容

(1)ウォーミングアップ
①様々な鬼ごっこ
目的&狙い：ボールを使い、コーディネーション能力を高める。
多彩な動き・判断力（個人戦術）をスムースに行う。
②パスゲーム
目的&狙い：相手とのスペース（間合い）の取り方の習得。
とっさの判断力養成・緩急の取り方の習得

(2)コーディネーション
ワンマン自由自在
片手キャッチ（ボール1～2）
ドリブル&キックドリブル
2ボール→3ボールパス
2人：トス&パス・キック&パス
3対2のパスゲーム
目的&狙い：リズム、タイミング、反応、変換等の能力養成。

(3)パストレーニング
①アシストパス
目的&狙い：ポスト・サイド・ノーマークへのアシストパスの養成。
②2対2＋フリーマンパス
目的&狙い：パスの判断、タイミングを習得する。

(4)シュートトレーニング
①シュートの打ち分け方
目的&狙い：相手とのスペースの取り方・間合い、
ステップの使い方、足の出し方の習得。
②ポジション毎のシュート
目的&狙い：ポジション毎（ポスト・サイド・ブレークスルー）に必要な
基本的なシュートの習得。

(5)1対1&2対1グループ戦術トレーニング
①5種類のフェイント習得
目的&狙い：1対1の突破能力の養成。
5種類の基本的なフェイントの習得。
②様々な2対1
目的&狙い：グループ戦術における判断とリーダーシップ習得。
③3対3
目的&狙い：瞬時のポジショニングとリーダーシップ習得。
5種類の基本的なフェイントを使い、広い1対1を狙う。

(6)ゴールキーパートレーニング
①正しいポジショニング
目的&狙い：相手のプレーに対して、素早く正しいポジショニングをとる。
②体全体でのダイナミックなキーピング
目的&狙い：ボールを怖がらずに、大きい面でミートするイメージを作る。
③確実なパスアウト
目的&狙い：速攻の第一ステップとして正確なパスアウト

・人・物・登・場・～そのとき活躍した人々～

さて、今回ご登場いただくのは。

村田　弘さん

大正13年10月7日生

大阪府堺市出身。ミュンヘンオリンピックでハンドボールが正式種目となるにあたり、その対策委員長を務めた。昭和19年日本体育専門学校（現日体大）卒業。戦後、大阪府立中学・高校の教員として三国丘高校などに昭和60年まで奉職。プレーヤーとしては昭和31年の日本対西ドイツ戦はじめ、国民体育大会には第1回から15回まで連続出場。うち7回に優勝。全日本選手権も10回出場し、うち3回に優勝。スタッフとしても数多くの国内、国際大会の舞台を戦った。大阪協会、日本協会の理事なども歴任するなど、その経歴・実績は書き尽くすことが出来ない。平成8年秋には勲五等雙光旭日章を受賞。

今日はJOCカップの開会式ですね。

（注：12月25日お話をうかがいました。）

ご存知の人も多いと思うのですが、陸上100mのスペシャリスト朝原選手は、この大会の出身選手の一人なんですよね。何年か前に男子の大阪選抜チームが優勝しましたが、その時の主力選手は、アメリカンフットボールと掛け持ちしている子が多くて、結局高校ではアメフトを選んだ子が多かった。あれだけの高い運動能力を持った子達が、なにか縁あってハンドボールという競技を始めたのに、それが続いていかなかった。ピラミッド型がスポーツ普及という観点では理想だと思うのですが、野球・サッカーは底辺も充実しているのに対し、ハンドボールはひし形みたいな感じですよね。底辺が安定していない。小・中でしっかりした底辺を作りたいですよね。

ハンドボールを通じて思い出に残っていることはなんですか。

今から35年くらい前の昭和44年だったでしょうか。ミュンヘンオリンピック出場を目指すナショナルチームが初めてのヨーロッパ合宿を行ったときのことですかね。その時は、オリンピックの前に行なわれる世界選手権で8位以内に入れれば出場権、ダメならアジア予選にまわるというシステムになっていたので、世界選手権前に、なんと2ヶ月間にわたり、ヨーロッパ合宿を行うことになったのです。当時の協会役員には強力な支援を頂き、予算の大半を費やしてのものでした。地方からの温かい声も大きかったですね。まず最初の1ヶ月はルーマニアで行いました。ネデフというコーチに指導を受け、次の1ヶ月はヨーロッパ各国とひたすらテストマッチを行いました。ハンガリー・ユーゴスラビア・西ドイツ…、これは本当に収穫の大きいものでした。その中でも当時最強といわれたユーゴスラビアとの1戦。激戦の末18—17と1点差で勝利し、ヨーロッパ中で「神風が起こった!!」と報じられたようです。

その収穫の中で一番大きかったものは何だと思われますか。

やはり一言で言えば“慣れ”なのではないかと思います。今よりもっと体格差があった時代に、当時の選手達が試合をこなす中でだんだんと当たり負けしなくなっていった。高いレベル、本場の環境でプレーすることに慣れたことが、結果的に世界選手権では10位に終わりアジア予選において得た出場権ではありましたが、オリンピック出場につながった原動力であったと思います。

いまアテネに向けて協会あげて取り組んでいます。

個人的な意見になりますが、1週間・10日間といった短い合宿を繰り返すのではなく、本場で長い合宿期間を是非持って欲しいと思います。極端に言えば、ナショナルチームがヨーロッパを拠点に活動し、大会時のみ日本に戻ってくる位でも良いのではと考えますね。それほどまで、本場で得られるものは大きいと言うことです。

以前、サッカーJリーグの川淵チェアマンと話をする機会がありましたが、今サッカー界の指導者は、代表のトルシエをはじめ半分以上が外国人。やはり外国の血を入れることも重要と考えます。また高いレベル、世界レベルを視野に入れた長期的な視野が必要ということです。日本はともすると、目の前の大会やライバルばかりに目をとらわれがちですが、アジアを越えた世界に視野を向けておく必要があるということです。

村田さん、ありがとうございました。お話以外に、村田さんから日本最初の競技規則など、貴重な資料や情報も多く頂くことが出来ました。機関誌においてもこれからご紹介していく予定でいます。

平成13年度コーチ・レフェリー・シンポジューム開催

1. 開催の目的

（財）日本ハンドボール協会公認指導者、ならびに、公認レフェリーを対象に、今日的なハンドボール界をとりまく諸問題、効果的指導法、判定をめぐる諸問題等の分析・検討をすることによって、指導者、レフェリーとしての各々の資質向上を目指すものである。さらに、将来の日本のハンドボールのあり方を模索するために、活発な情報交換と研究協議を通して連帯感を深め、より一層の組織的充実・発展を図るために開催するものである。

2. 主催

（財）日本ハンドボール協会

3. 主管

（財）日本ハンドボール協会指導委員会
（財）日本ハンドボール協会審判委員会

4. 期日

平成14年3月8日（金）～10日（日）

5. 場所

東京オリンピック記念青少年総合センター
〒151－0052 東京都渋谷区代々木神園町3－1
（新宿駅より小田急線で2つ目の駅、参宮橋下車、徒歩5分）
コーチ部門（8日の集合、9・10日は青少年センター）
日本女子大学
〒157－8565 世田谷区北烏山8－19－1

6. 参加資格

（財）日本ハンドボール協会公認指導者、公認レフェリー
都道府県ハンドボール協会指導者組織を代表する者（指導者担当者等）
都道府県ハンドボール協会審判組織を代表する者（審判長等）
日本リーグの各チームを代表する者（監督等）
都道府県ハンドボール協会、各連盟において推薦された者
（注）日本リーグ審判員については、講習参加ポイントとなります。公認指導者については、義務研修の一つとなります。指導者担当者・審判長等については、各都道府県協会より、それぞれ最低各1名のご参加をお願いいたします。日本リーグチームにおいては、最低1名のご参加をお願いいたします。

7. 参加費

5,000円

宿泊は、施設の関係上60名前後、代々木のセンターの宿泊が可能です（申し込み順）。代々木のセンター宿泊希望の方は、宿泊費（2泊）4,600円と食費2,400円が必要となります。（8日（金）夕食から10日（日）朝食まで）

宿泊費、食費は現地で徴収いたします。

宿泊を申し込まれない方は、食事は各自でご手配ください。

資料代は、別途制作実費を受付時に徴収いたします。

8. 参加申込方法

①参加申込は申込書に必要事項を記入の上、下記までご送付もしくはFAXしてください。
〒157－8565 世田谷区北烏山8－19－1
日本女子体育大学　笹倉　清則　宛
FAX：03－3300－3304

②参加費5,000円は下記の銀行へお振込みください。
UFJ銀行　渋谷西支店（普）口座番号 232305
（財）日本ハンドボール協会
※申し込み・振り込み締め切り　平成14年2月10日必着

9. その他

【レフェリーの方へ】

公認審判員の方は「公認審判手帳」をご持参下さい。公認指導者は「講習会参加証」に、審判員には「講習会受講印」を押印いたします。なお、この件に対するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

【公認コーチの方へ】

公認指導者の方は日本体育協会から送付されております「公認指導者手帳」をご持参下さい。この研修会は、日本体育協会の定める登録規定第4条に定めるための義務研修です。

<u>コーチで参加され実技講習を受ける方は、動ける服装でご参加ください。</u>

［問い合わせ先］
指導委員長　笹倉清則
TEL・FAX：03－3300－3304
メイル：sasakura@jwcpe.ac.jp

2000年ワールドハンドボール プレーヤー・オブ・ザ・イヤー

ボナヤ・ラデュロビッチとドラガン・スクルビッチが他をリードし選出される

女子

順位	プレーヤー	得票率(%)
1位	ボナヤ・ラデュロビッチ（HUN）	64
2位	アネット・ホフマン（DEN）	13
3位	アウスラ・フリドリカス（AUT） ハイディ・ツグム（NOR）	7 7
5位	ヴェロニク・ペクゲンツ（FRA） チャナ・マッソン（BRA）	3 3
7位	カミーラ・アンデルセン（DEN）	2
8位	イルダ・ベング（ANG）	1

男子

順位	プレーヤー	得票率(%)
1位	ドラガン・スクルビッチ（YUG）	57
2位	アンドレイ・ラフロフ（RUS）	18
3位	クリスチャン・シュワルツァー（GER）	7
4位	ステファン・ロヴグレン（SWE） タラント・ドイシェバエフ（ESP）	5 5
6位	ユン・キュン・シン（KOR） ジャクソン・リシャーソン（FRA）	3 3
8位	ロランド・ウリオス（CUB） ステファン・クレツマー（GER）	1 1

過去のワールドハンドボールプレーヤー

女子

1988	スヴェトラナ・キティッチ（YUG）
1989	キム・ヒュン・ミー（KOR）
1990	ヤスミザ・コラー（AUT）
1994	ミア・ハーマンソン－ホグダール（SWE）
1995	エルザベト・コスツィス（HUN）
1996	イム・オキョン（KOR）
1997	アニャ・アンデルセン（DEN）
1998	トリーネ・ハルトヴィク（NOR）
1999	アウスラ・フリドリカス（AUT）

男子

1988	ヴェセリン・ヴュジョビッチ（YUG）
1989	カン・ジェウォン（KOR）
1990	マグヌス・ヴィスランダー（SWE）
1994	タラント・ドイシェバイエフ（RUS）
1995	ジャクソン・リシャーソン（FRA）
1996	タラント・ドイシェバイエフ（RUS）
1997	ステファン・ストックラン（FRA）
1998	ダニエル・ステファン（GER）
1999	ラファエル・ギボーサ（ESP）

※女子1996年受賞のイム・オキョン選手、男子1997年受賞のステファン・ストックラン選手は、現在、それぞれ日本リーグの広島メイプルレッズ、ホンダでプレーしている。

PRCとCCMの新メンバー発表

[PRC指導委員会]（PRC＝競技規則・審判委員会）

テルイェ・アントンセン（NOR）
ラモン・ガレゴ・サントス（ESP）
ウィリー・ハックル（GER）
テディ・ユリウッセン（CAN）
カルロス・ソウサ（POR）
ミゲル・アンヘル・ザウォロトニ（ARG）
オレ・クリステンセン（DEN）
後藤　登（JPN）
ステファン・ユグ（SLO）
ロジェ・シル（SUI）
メジアヌ・タシヌ（ALG）
C・ヤクブ（NGR）

[CCM講師]（CCM＝指導委員会）

ミハエル・バルダ（CZE）
モハメッド・アジズ・デルアズ（ALG）
ファン・アントン・ガルシア（ESP）
パブロ・ファン・グレコ（BRA）
エッケ・ホフマン（GER）
ベント・ヨハンソン（SWE）
ポール・ランデュレ（FRA）
ウォルフガング・ロヴァク（GER）
ブラニスラヴ・ポプラヤク（YUG）
エルサイド・モハメッド・ソリマン（UAE）
ナビール・タハ・アル・シェハブ（BRN）
ヒュン・キュン・チョン（KOR）
クラウス・フェルドマン（GER）
ジャン・ミシェル・ジェルマン（FRA）
Dr.モハメッド・ハムーダ教授（EGY）
アンナ・マリア・ヤカブ（SUI）
ラズロ・コバッチ（HUN）
イヴォン・ローラン（FRA）
ゾルタン・マルチツィンカ（AUS）
ファン・デ・ディオス・ロマン・セコ（ESP）
フィリップ・スブランヌ（FRA）
トン・ヴァン・リンダー（NED）

IHFニュース IHFニュース IHFニュース IHFニュース IHFニュース

2005年世界選手権発表される

IHFは2005年中に行われる世界選手権日程を以下のように発表した。

男子世界選手権	1月24日～2月6日
女子ジュニア世界選手権	8月1日～14日
男子ジュニア世界選手権	8月22日～9月4日
女子世界選手権	12月5日～18日

開催地の決定は、2002年11月サンクトペテルブルグのIHF通常総会で行われる。

ユース選手権まもなくか？

ワールドゲームズだけでなくビーチハンドボールを

IHFは大会の拡大を現在考慮中であり、なかでも男子および女子ユースナショナルチーム（U－18/U－17）の世界選手権が予想される。

楽しいスポーツであるビーチハンドボールは、IHF大会プログラムに欠かせないものとなるはずである。秋田ワールドゲームズの際に行われた第1回ビーチハンドボール世界選手権には大変よい反応があり、2002年も続けて開催されるだろう。しかし、そのためにはビーチハンドボール選手権が全大陸で開かれなければならない。現在までにそうした選手権は、ヨーロッパとアメリカのみで開かれており、第1回大陸選手権がまもなくアジアとアフリカで開催されるところである。

大陸選手権トーナメント

スーパーグローブとインターコンチネンタルカップ

IHFは非公式ながら第1回のクラブリーグ世界選手権スーパーグローブを、アフリカ、アジア、ヨーロッパ、パンアメリカから最高のクラブチームの参加で、1997年オーストリアで開催した。IHFでは現在この大会を復活させ、今後は定期的に開催するよう尽力している。

同時に、アフリカ、アジア、ヨーロッパ、パンアメリカの、現在最高の男子ナショナルチームを集めて、第3回インターコンチネンタルカップも行われる予定である。

インターネット復活

しばらくアクセスできなかったIHFのウェブサイトが復活。ドメイン名はwww.ihf.infoで、データ、Facts & Figures、世界選手権からビーチハンドボール、オリンピックに至る情報、IHFの歴史や機構も含まれている。移籍規則ほか、規則も取り出すことが可能でIHFはさらに改良と開発を継続する。

ザンビアが147番目のメンバーに

評議会は前回会議でザンビアを暫定メンバーとした。正式メンバーへの承認は、2002年IHF総会で行われる。ザンビアハンドボール協会は、1983年にすでに創設されていたが、メンバーシップへの申請は最近のことで、合計147カ国となる。

イベント

2002年1月25日～2月3日	男子ヨーロッパ選手権（スウェーデン）
2月9日～21日	男子アジア選手権兼WC予選（エスファハン・イラン）
3月7日～9日	IHF評議会
4月20日～28日	ヨーロッパカップ女子決勝
5月11日～19日	ヨーロッパカップ男子決勝
5月29日～6月2日	第9回国際ハンドボールカップ（ブラジル）
2002年12月27日～2003年1月4日	第１７回世界男子学生選手権（ブラジリア）

海外交流届出について

2001年ニューヨークで始まった同時多発テロに関連して、文部科学省競技スポーツ課よりスポーツ競技団体宛、海外危険情報について以下の注意喚起がなされております。

1、 外務省海外安全相談センターからの注意喚起

（1）平成13年10月8日未明（日本時間）、米国及び英国はタリバンの軍事施設等に対する空爆作戦を開始しました。この事態を受け、今後、各地の米国乃至英国の公館、軍事基地、経済権益、又両国と緊密な関係を有する同盟諸国の権益等を標的としたテロ行為が発生する危険性が高まることが予想されます。また、アフガニスタン周辺諸国及びその他のイスラム過激派が活動している諸国において、テロ事件の発生、治安情勢の悪化等の事態が生じることが懸念されます。

（2）つきましては、海外に渡航または滞在される邦人の皆様は、上記に関連した情勢に十分に留意しつつ、最新の情報を入手するように務めてください。また、テロの標的となる可能性がある施設等、危険な場所に近づかないようにするとともに、テロ事件の発生・治安情勢の悪化等の事態に備えての対応策を緊急に再点検し、状況に応じて警戒、退避等適切な安全対策が速やかに講じられるよう準備して下さい。

（問い合わせ先）

○外務省領事移住部邦人特別対策室（テロ関係）
東京都千代田区霞が関２－２－２
TEL：（外務省代表）03－3580－3311

○外務省領事移住部邦人保護課（テロ関係を除く）
TEL：同上

○外務省海外安全センター
TEL：（外務省代表）03－3580－3311（内線）2902

○外務省ホームページ（渡航関連情報）

2、また、外務省より海外危険情報が逐次発出されており、最新の危険情報は、下記のURLにありますので、海外に渡航する場合には、十分ご留意願います。

http：／／www.pubanzen.mofa.go.jp／kaian__search／fnewest__risk.htm

なお、外務省ホームページ（http：／／www.mofa.go.jp／pubanzen／）にその他の渡航関連情報が掲載されていますので、参照願います。

危機管理委員会の設置

以上のことから、日本ハンドボール協会では11月に大西専務理事を座長に危機管理委員会を設置し、役員、選手の海外派遣に関する危機管理を開始した。

この委員会は、外務省、日体協、JOC、フランス、イタリア、イランなどと密接に連絡を取りながら情報収集を行い、以下の条件を考慮しながら海外派遣を決定していくこととしている。

判断基準：外務省危険度ランク2、派遣地域の状況
参加選手：選手本人、所属先、家族などの承諾

海外遠征の日本協会への届出について

日本協会では従来より海外交流について届出をお願いしておりましたが、昨今の世界情勢から、加盟団体及びチームが何らかの事故やトラブルに巻き込まれた時に早急に対処するため、再度届出を強くお願いすることとしました。

つきましては、以下の点に留意され、海外交流を計画される加盟団体及びチームにおかれましては、実施前に日本協会まで届出をお願いします。

届け出事項

1、主　催：交流の主催団体（もっとも確実に連絡の取れる連絡先を含む）
2、後　援：支援団体のある場合ご連絡下さい
3、目　的：交流の趣旨、目的をご連絡下さい
4、期　日：日程表
5、渡航先：行程表（日程表に含んで構いません）
6、宿泊地：宿泊地の連絡先をご連絡下さい
7、参加者：参加者名簿
8、費　用：概算費用とその内容
9、その他：関係者に対する説明会などの実施の有無など

アジア選手権参加に伴う日本リーグ日程変更について

2002年2月9日から21日までイランのイスファハーンで開催される、アジア男子選手権（兼2003年世界選手権アジア予選）参加のため、日本リーグ男子の試合日程が変更されることになりました。

変更される試合は別表のとおり、男子1部の15試合、2部の1試合です。

開催地関係の皆様をはじめ、ファンの皆様、マスコミ各社の皆様には、多大なご迷惑をおかけすることとなり、心よりお詫び申し上げます。引き続き日本ハンドボールリーグへのご支援を宜しくお願いします。

〈男子世界選手権・アジア予選参加に伴い変更される試合一覧表〉

NO	対戦カード	旧日程	新日程		
			月　日	開始時間	会　場
1	大同特殊鋼 vs 本田熊本	1月30日	3月 9日（土）	14：00	大同工業大学石井記念体育館
2	湧永製薬 vs 大崎電気	2月 1日	3月 9日（土）	13：00	湧永満之記念体育館
3	本田技研 vs アラコ九州	2月 2日	1月23日（水）	18：00	本田技研健保体育館
4	大同特殊鋼 vs アラコ九州	2月 3日	3月 6日（水）	18：00	大同工業大学石井記念体育館
5	トヨタ車体 vs 湧永製薬	2月 6日	2月27日（水）	18：30	知立市福祉体育館
6	大崎電気 vs 北陸電力	2月 9日	12月22日（土）	13：30	八潮市立鶴ケ曽根体育館
7	湧永製薬 vs アラコ九州		2月24日（日）	13：00	湧永満之記念体育館
8	本田熊本 vs 本田技研		1月14日（月）	13：30	菊池市総合体育館
9	大同特殊鋼 vs トヨタ車体	2月10日	1月27日（日）	14：00	大同工業大学石井記念体育館
10	本田技研 vs 湧永製薬	2月13日	3月 6日（水）	18：00	本田技研健保体育館
11	大同特殊鋼 vs 大崎電気	2月17日	2月22日（金）	18：00	大同工業大学石井記念体育館
12	本田技研 vs トヨタ車体		3月 8日（金）	18：00	本田技研健保体育館
13	湧永製薬 vs 北陸電力		3月10日（日）	13：00	湧永満之記念体育館
14	アラコ九州 vs 本田熊本		2月27日（水）	18：00	アラコ九州クレインアリーナ
15	トヨタ車体 vs 大崎電気	2月21日	2月24日（日）	13：30	知立市福祉体育館

＊日本リーグ男子1部15試合（1月30日から2月21日までの間）を変更した。2月2日の「トヨタ車体と本田熊本」戦は予定どおり実施する。

＊尚、上記男子1部リーグの日程変更に伴い、2部リーグでも1試合日程変更となる。

16	トヨタ自動車 vs トクヤマ	2月 9日	1月19日（土）	13：30	佐賀県総合体育館

協会だより

平成13年11月度 常務理事会

日　時：平成13年11月10日（土）
　　　　10：00～12：30
場　所：NTT麻布セミナーハウス
　　　　306号室
出席者：山下副会長、岩井特任副会長、大西専務理事、常務理事7名、理事1名、参事2名、監事1名

議 題

1. 役員・選手海外派遣傷害保険の件

保険内容の基本について承認。

また、2002年度国内大会、国際大会について、判明しているところ、あるいは判明次第事務局まで連絡を依頼。各本部、委員会行事についても提出を依頼。

2. 海外合宿派遣の件

女子世界選手権、男子強化遠征・アジア選手権兼世界選手権予選は、条件付で承認。

U－23海外遠征は中止とする。

危機管理委員会を設置し、事細かに管理する。

3. 強化予算の件

強化予算下期支出計画の承認依頼に対し、資金調達計画の入金を確認して実行するよう依頼がなされた。

国内で開催する国際大会について、効率のよい方法で実施するよう要望があった。

4. マーケティング委員会の件

IHF、AHFにもあるので、日本協会にも設置したいとの理由が述べられ、組織作り、人選については山下副会長に一任となった。12月中に案を提出。

5. プロジェクト21の具体的構想

プロジェクト21運営組織図について説明があり、日本協会組織を基本として調整することとなった。

地方協会、加盟団体との兼ね合いもあるので、関係者とよく話し合ってもらいたい旨要望された。

6. 第2次補正予算について

第2次補正予算について説明がなされた。

役員登録に関して、全額日本協会に納入し、その後補助金として戻す方式とする。

7. 全日本総合選手権大会について

平成14年度は、愛知県開催に決定。

日本リーグの成績でシードを決定する。

8. がんばれ10万人会現状報告

資料により、10万人会について現状報告。

9. TVKテレビ放映の件

ヨーロッパ選手権などハンドボールのゲーム放映について説明があり、全国ネットについて検討の必要があることが述べられ、アテネとの絡みも考えて再検討。

10. 指導者制度改訂の骨子について

日本体育協会、日本ハンドボール協会公認指導者について、改訂が検討されていることを報告。

11. 国際委員会の件

国際委員会名簿が提出され承認。

12. 中・台・韓・日定例会議設置について

平成14年4月か5月に第1回会議を開催することに決定。

平成13年度 第2回理事会

日　時：平成13年11月10日（土）
　　　　13：00～16：00
場　所：NTT麻布セミナーハウス
出席者：山下副会長、岩井特任副会長、大西専務理事、常務理事7名、理事7名、参事9名、監事2名

議 題

1. 全日本総合ハンドボール選手権大会について

理事会終了後に抽選会を行うことの報告。

男子、トクヤマ、大阪ガスの出場辞退のため、豊田合成、インテックス21が出場することが報告された。

平成14年度大会は愛知県協会より開催申請があったことが報告され、了承された。

今後の全日本総合に関して、登録金、補助金、シード選出方法、開催方法、大手協賛企業が出た場合の冠大会、日本選手権構想について今後検討していくことが提案され、了承された。

平成15年以降の開催希望があれば申し出てほしい旨連絡された。

平成13年度の大会は関東協会を中心に男子東京、女子千葉の分散開催となったことが報告された。

2. 国体夏季大会移行について

国体の夏季大会移行に関する現在の進行状況が説明された。以下の4点が認められるなら協会として夏季大会移行を承認する意向で10月の常務理事会で確認し、宮城国体での全国理事長会

に報告した。

（１）47全都道府県出場は推進する

（２）3種別の参加チーム数12は競技開始からトーナメント方式ではなく、予選4ブロック、3チームのリーグ戦を経て8チームを選出し、その後トーナメント方式とする

（３）競技場の設営基準で全ての種別を体育館にする
競技場の40m×20mは確保する
安全地帯設備については協議する

（４）空調（冷房）
冷房については可能な限り設置するとし、柔軟に対応する。

以上の方向で、秋田国体より実施することで提案どおり進めることとなった。

3. 社会人連盟設立について

社会人連盟（仮称）の平成15年4月設立に向けた構想の経過報告がなされた。

Q：社会人連盟を設立しても、ハンドボールの場合、都道府県協会で独立はできず、結局は日本協会だのみになってしまうのではないか。

A：連盟を作る理由は、都道府県レベルでは大会の運営スタッフ集団と考えたい。

Q：高校の場合は２大大会で手一杯である。

A：社会人連盟では、高体連に所属していない高校生、学連に所属していない大学生を対象とする。高体連、学連所属の選手については従来通りとしたい。

A：現連盟に所属していないチームを社会人連盟に含めたい。

A：まだ都道府県協会の現状が十分認識できていない。これからの課題である。

A：市町村に１チーム創設が必要と言っている。

A：社会人連盟発足に当たっては、現状を踏襲し、更なる発展が大切だ。

A：平成14年の全国理事会までには、ある程度の形と実施要項を作っておく必要がある。

社会人連盟（仮称）設立に向けては報告の通り承認された。

4. 日本ハンドボール協会公認Ｊ級指導員規程について

教員の高齢化、新採用減のなかで外部指導者の要請が大きくなってきている。全国で172名の外部指導者が活動しており、122名は報酬を得ている。高校でも外部指導者がいる。

現在の指導者資格は日体協、日本協会によるコーチ、指導員である。将来的には競技団体の指導者資格が求められている。ハンドボール協会としては15歳以下のチームを対象とした指導者資格としてJ級指導員資格の設置を提案している。取得に当たっては過負担にならないよう6時間（講習3、実技3）程度を考えている。

日本ハンドボール協会公認J級指導員規程については承認された。

5. 静岡国体リハーサル大会、ジャパンオープントーナメント大会要項（案）について

静岡国体のリハーサル大会としてジャパンオープントーナメント大会の要項（案）の説明がなされ、了承された。

6. 事業予算　第２次補正予算について

第2次補正予算について、現状の予算執行状況と、今後の健全財政、健全執行の説明がなされた。

収入の部については第１次補正と変わりなく、支出の部では、自転車振興会の補助金廃止と大崎スポーツ財団の補助金変更により支出が増額された。

以上承認された。

7. 海外合宿派遣の件について

米国同時多発テロに伴う、アフガン戦争に伴い各種競技団体で海外遠征が中止されている現状について説明がなされた。ハンドボール協会としては、選手個人の意志を尊重しながら、海外での活動は強化へとつながるとの強化部の意向を受け、IHF、AHFの公式大会へは、万全の対策を採って参加する方向であることの説明がなされた。

本人の承諾書を取る。本人が希望しない場合には不参加もあり得る。

U－23では、各大学の問題もあるのでロシア遠征の中止を決めた。

12月の高校の韓国遠征は、上部競技団体の意向に従うが、昨日の全国高体連の会議では議題にあがらなかった。

高校の場合、都道府県により温度差があるが、各団体の判断で行っていただきたい。

海外合宿派遣の件については了承された。

8. 高専ハンドボール専門部　日本協会加盟の件について

高専ハンドボール専門部の日本協会加盟について説明がなされ、加盟承認された。

9.マーケティング委員会設立の件について

マーケティング委員会設立の必要性について以下のような説明がなされた。IHFもAHFもマーケティング委員会を持っており、お金をどう集めるかは大きな問題である。企業としては一本化を希望しており、将来的にはソッポを向かれる可能性もある。日本協会としても現状が把握できておらず、都道府県、各連盟に均等配分しなければと考えている。

日本リーグ企業が１チーム撤退すると減収となるなど、今後は企業をもっと大切にしなければならない。マーケティングに関してはプロ的な知識が必要であるため、委員会の設立の必要がある。

人選はまだ決まっていないことの説明がなされた。実連、学連、高体連などから代表者を出して委員会を設置したいことが述べられた。

マーケティング委員会の設立は了承された。

10. プロジェクト21の具体的構想について

プロジェクト21の概要が、以下のよ

うに説明された。ナショナルチームがアテネに出るためには強化に限定するのでなく、協会の体制を変える必要がある。日本協会が発足したのはベルリンオリンピックの後で、60数年の歴史がある。社会が大きく変わろうとしている今、日本協会自身も見直す時期に来ていると考える。今年度中にプロジェクトのまとめをしたいと考えている。各都道府県の現状を把握しながら、発展的な構造改革をしていきたい。

プロジェクトの内容について具体的に説明がなされた。4月のアテネ委員会発足以来2回の大会を開催した。ナショナルチームも力をつけ、イランのアジア予選では結果が出せる見込みが出てきた。アテネを実現させるためには、日本協会の構造改革が必要である。そして、もっともっとたくさんの人がハンドボール協会、競技に関わる必要があると考える。各都道府県の現状を知り、意見を聞きたいので話し合いの場を設定してもらいたい。

関東協会の場合、年3回の会議しかない。次回は2月であるが、予算もないのでそれに併せてもらいたい。

費用は日本協会もちでも構わない。4月からの実施を考えているので、できるだけ早い時期に会議を設定してもらいたい。

会議では、地元で活躍していて、意見の言えるメンバーを集めてほしい。

各ブロックにおいて早急に会議の場を設定することが了承され、プロジェクトの推進が確認された。

11. がんばれ10万人会の現状報告

サポート会員登録状況について説明がなされた。

会員増加について以下のように依頼がなされた。今年度から、各都道府県に対する還元金は会員数に比例させ、50人以上になると還元率が大きくなるので、50人を目標に頑張ってもらいたい。なお、平成13年中にニュース第3号を発行するので活用してほしい。

12. 日本リーグの現状報告

日本リーグに関する説明が以下のようになされた。10月より第26回大会が開幕した。女子はシャトレーゼ、男子は大崎が台風の目となっている。また、今期よりクラブチームとして参加している、メイプルレッズ、HC東京も頑張っている。

来期は日立栃木の撤退が決まっており女子は7チームになる見込みである。益々の経費節減での運営が望まれる。

日本リーグでは、新ルールを平成14年4月の施行に先駆けて実施している。マイナーチェンジであり現在までで問題は出ていない。

第27回以降はスーパーリーグ方式を考えている。とりあえず、第27回男子は3回総当りで行い、ホーム＆アウェイ、プラス他地域で実施する。

観客動員数は昨年並み。

事務局の日本リーグ担当が交代したことが報告された。

13. その他

辞表が提出された常務理事の後任について、国際関係、アテネ事務局の担当を発表した。当面欠員補充は行わず、4月に向けて人選を行う。

東西インカレのお礼と、全日本インカレへの協力が依頼された。

作戦タイムの際、チームにブザーを持たせてもよいか、また作戦タイムの請求の成立についての質問がなされ、IHFではグリーンカードを用いるのが請求の唯一の方法で、記録席のテーブルに置いたときが請求の成立であると回答された。

日本協会でも新たにグリーンカードを作成したので活用していただきたい。

43回に亘り行ってきた教職員大会も今年度は4チームのみの参加で、来年度の開催は見送りたいと報告された。

大学生の在学中の日本リーグ登録は可能かとの質問がなされ、日本リーグは学連がOKなら、リーグとしては問題ない、日本協会としても問題ないと回答された。ただし、移籍後3ヶ月は元のチームに戻れない。日本協会としても、先の社会人構想の中で、同一クラブ内のサテライトクラブ間での移籍については検討をしている最中であり、改めて回答する。

高体連では学校統廃合に絡んで統一チームを認めている。高等学校での複数校にまたがる統一チームの登録は可能かとの質問がなされ、来年度の登録事務が始まるまでに回答する。

来年度の高知国体時の理事長会では宿舎の確保は難しいので、今年度と同じく各自で対応してほしいとの連絡がされた。

スポーツ安全保険はみんなの安心をお約束します。

5名以上のグループでご加入下さい。

スポーツ活動、文化活動、ボランティア活動等に最適な保険です。

加入区分		掛金	傷害保険（保険金額）				賠償責任保険（補償限度額）	共済見舞金
			死亡	後遺障害	入院	通院		
A	子供の スポーツ活動等 成人の 文化活動、ボランティア活動、地域活動	450円	2,000万円	最高 3,000万円	1日につき 4,000円	1日につき 1,500円	身体賠償 1人 1億円 1事故5億円 （免責1,000円） 財物賠償 500万円 （免責1,000円）	突然死 140万円
B	老人の スポーツ活動	800円	500万円	750万円	1,800円	1,000円		
C	成人の スポーツ活動	1,400円	2,000万円	3,000万円	4,000円	1,500円		
D	山岳登はん、アメリカンフットボールなど	9,000円	500万円	750万円	1,800円	1,000円		

対象となる事故 ―― ●グループ活動中の事故　●往復途中の事故

保険期間 ―― 平成13年4月1日から翌年3月31日まで（申込受付は3月から）

あいおい損害　朝日火災　共栄火災　住友海上
大成火災　大同火災　東京海上　日動火災
日産火災　日新火災　ニッセイ同和損害　日本興亜損害
富士火災　三井海上　安田火災

保険については東京海上を幹事会社として、上記損害保険会社15社との共同保険となっております。（2001年4月1日現在予定）

お問い合わせ

〒150-8050　東京都渋谷区神南1-1-1　岸記念体育会館　TEL 03-3481-2431

財団法人 スポーツ安全協会

ホームページアドレス　http://www.sportsanzen.org

資料請求	FAX専用フリーダイヤル **0120-104442**（自動受付）	「加入依頼書（都道府県別）」、「団体員名簿」、「あらまし」、「事故通知はがき」のご請求の際、①資料内容（前記印刷物名）②必要部数③送付先の住所④氏名⑤電話番号をお書きのうえ、左記FAX番号宛お送り下さい。 なお、発送には多少日数がかかる場合がありますので、ご了承ください。

ホームページ（http://www.sportsanzen.org）でも同様に受付しておりますので、ご利用下さい。

「がんばれハンドボール10万人会」11・12月新規入会・継続更新会員の紹介

【岩　手】大越規雄、箱崎敬吉、高橋　真
【秋　田】佐藤伸吾
【福　島】宗形守敏
【栃　木】坂本定芳
【群　馬】佐藤勇二
【埼　玉】岡村昭二、符金誠示、木本良一
【千　葉】外山准二、平田光徳、藤本信幸、仲田　稔、窪田　優
【東　京】佐藤俊男、佐藤映子、蒲生澄子、川上整司、萩原一次、堀江成典、岡前義春、浜田浩和、古波蔵とき子、三浦丈治、大塚文雄、渡邊佳英、川上憲一、野島さやか、藤原　侑、桧崎　潔、西川清志
【神奈川】中丸英一、稲葉鋭夫、加古川正巳、北川勇喜、斉藤慎太郎
【山　梨】天野盛夫
【長　野】服部博幸、青木　崇、古家信明
【新　潟】庭山政幸、小川　浩
【富　山】吉水慎一、永田義邦、徳前美智子、飯山真貴子、徳前順子
【石　川】伊藤義直
【福　井】山崎信晴、斉藤隆教、佐々木静夫、角谷喜代重
【愛　知】富田寛治、栗脇　嶷、野田　清、太田耕治、間瀬和義
【三　重】大石博義、大石道子、細野秀男
【岐　阜】杉山二女代
【京　都】守本幸三郎、藤本章子
【大　阪】川口順弘、家永昌樹、浅井隆志、勝本章裕
【兵　庫】村上　潔、光島磯雄、加藤　淳
【鳥　取】萬　隆志
【広　島】山手文雄、市原竜太、白石　隆、酒井幸雄、樋野村　勉、松本昌之、木野　実、井上啓次郎
【香　川】藤沢秋義、末澤光夫
【愛　媛】越智　誠、野中　聡、井上浩二、中川英二、柳原　豊、柳原　奨、柳原真弓、近藤百雄、渡邊弘安、越智理佳、越智裕介、越智皓平、越智聡郎、鈴木寿洋、加藤誠一、東福拓朗、東福康浩、東福浩太朗、佐伯　歩、柳原政子、柳原　章、柳原　勉、井上博史、平井　貢、吉田亮一、山内英作、壷内美津子、壷内博章
【福　岡】松本浩志、宮内貴博、赤星正二郎、石井一宏、新荘加代子、末安　勝、熊本尚史
【長　崎】浅田五郎、浅田美穂子、山下　翠
【熊　本】藤田八郎、高島協助
【宮　崎】佐藤和好、奥村真人

[2月の行事予定]

〈会　議〉
2月9日(土)　午前　常務理事会　(東京)
2月9日(土)　午後　第3回理事会　(東京)
2月23日(土)　第2回評議員会　(東京)
2月24日(日)　全国加盟団体事務取り扱い責任者会議　(東京)

〈大　会〉
2月9日(土)・10日(日)
全日本実業団チャレンジ2002Aグループ
鈴鹿市ホンダアクティブランド体育館
2月15日(金)～17日(日)
全日本実業団チャレンジ2002Bグループ
福井県北陸電力カフレア体育館

2月10日(日)～19日(土)
第10回男子アジア選手権兼2003男子世界選手権予選
イラン・イスファハーン
2月11日(月)　予選リーグ　韓国対日本
2月13日(水)　予選リーグ　日本対サウジアラビア
2月17日(日)　準決勝
2月18日(月)　順位戦
2月19日(火)　3位決定戦・決勝

[お知らせ]

平成14年度版新ルール競技規則書が完成

すでにご承知のとおり、平成14年4月1日より適用されます(一部大会ではすでに実施中)新ルールのルールブックが刊行されました。ご購入ご希望の方は、日本協会事務局までお問い合わせください。　TEL　03-3481-2361　FAX　03-3481-2367

HAND BALL CONTENTS FEB

(登録チームの購読料は登録料に含む)

柔らかな感触で、最適なバウンド！

new

新発売

new

PKCH3-AD DX
5,500円

new

PKCH2-AD DX
5,400円

アデランテ　前進

PKCH1-ADJ
3,600円

手縫い・国際公認球

PKCH3-AD
4,600円

PKCH2-AD
4,500円

PKCH2-ADR
2,700円

PKCH3-ADR
2,800円

MIKASA®
明星ゴム工業株式会社

(財)日本ハンドボール協会編 『ハンドボール』 第四二六号

昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可 平成十四年一月二十六日印刷 平成十四年二月一日発行

東京都渋谷区神南一―一―一
電話 代表 三四八一―二三六一
振替 〇〇一二〇―七―一〇二九三

編集兼発行人 大西武三

定価 年間三三〇〇円